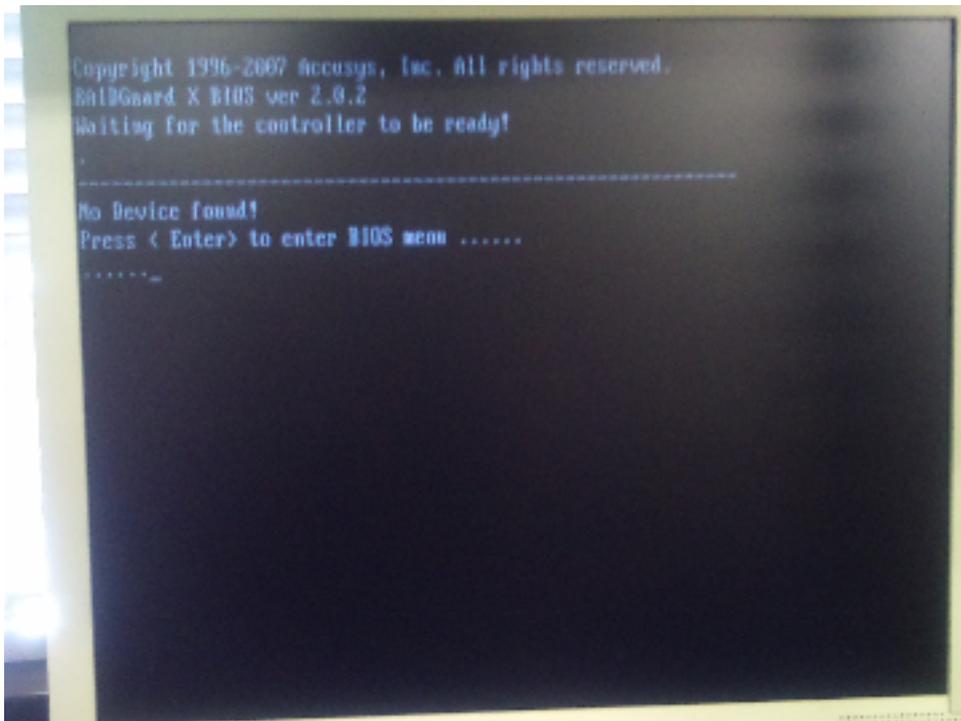


本マニュアルは、メーカーのマニュアルに対して補足事項的な扱いでインストール手順を説明するものでありご利用方法のすべてを解説しているわけではありません。

- ※ 本手順は作成途中のものです。 予告無く改変いたします。
- ※ サポート担当者は写真に素人な為、画質に関しては目をつむってください。 >_<

1-1.RAID の設定

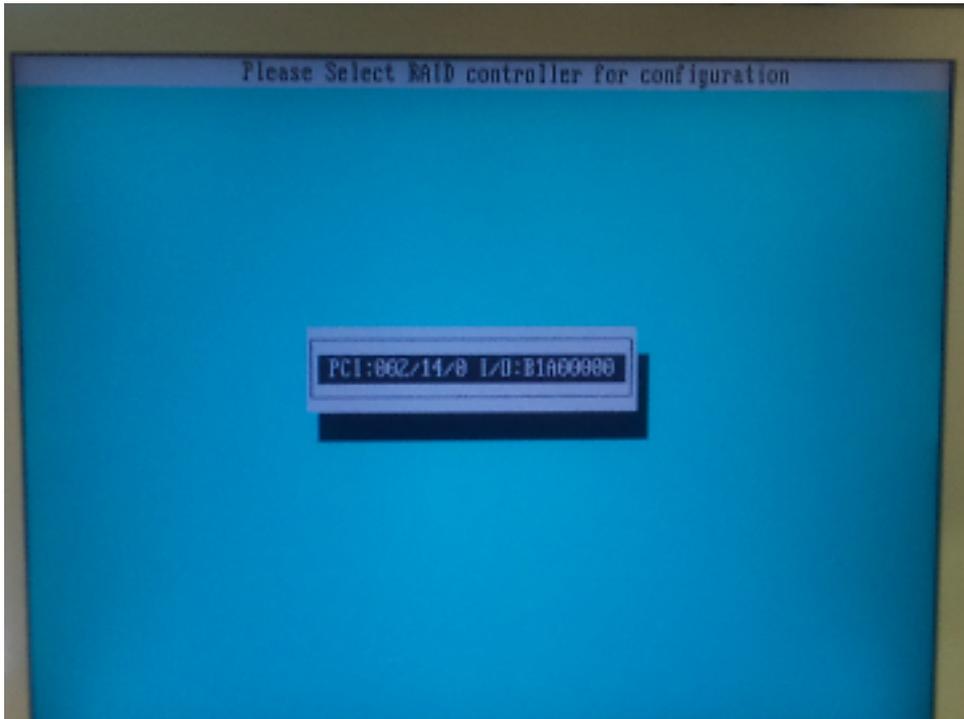


PC にインストール後に上記のような画面となったら、キーボードの“Enter”キーを押してください。

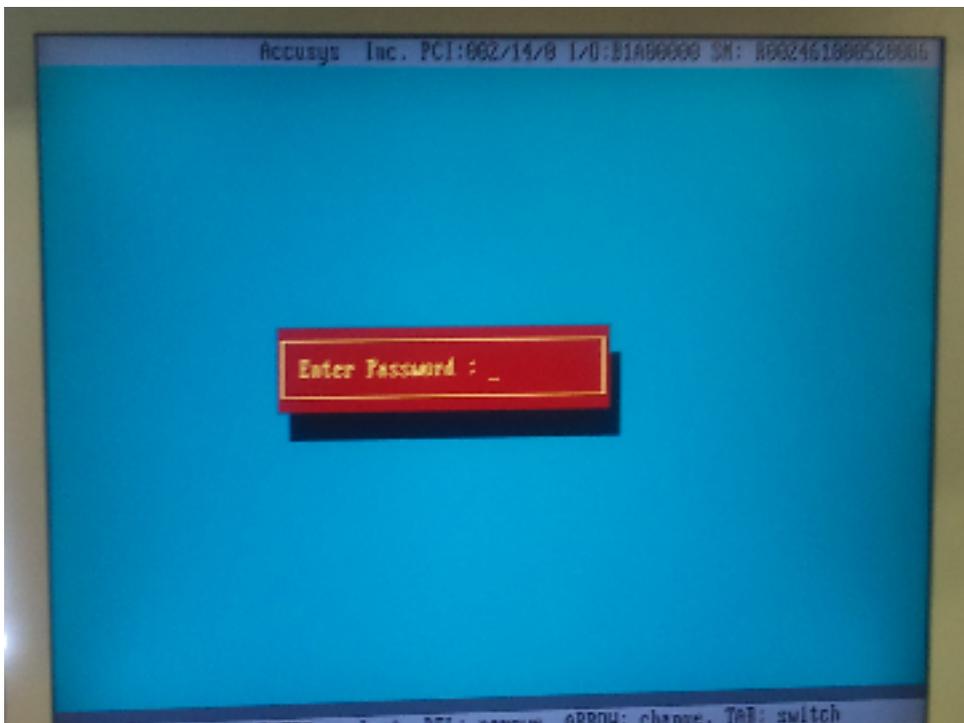
本 RAID カードは、2TB に RAID Volume が達すると、自動的に 64bit LBA に設定され GPT デバイスとなります。 XP 等の GPT に対応しない OS の場合は、1.9TB 程度に抑えてください。 スライス機能で分割をおこなうことは可能です。

OS インストール領域は、64bit 対応 OS でも正常にインストールするには EFI にする必要があります。現時点で正常に動作しないこともあります。

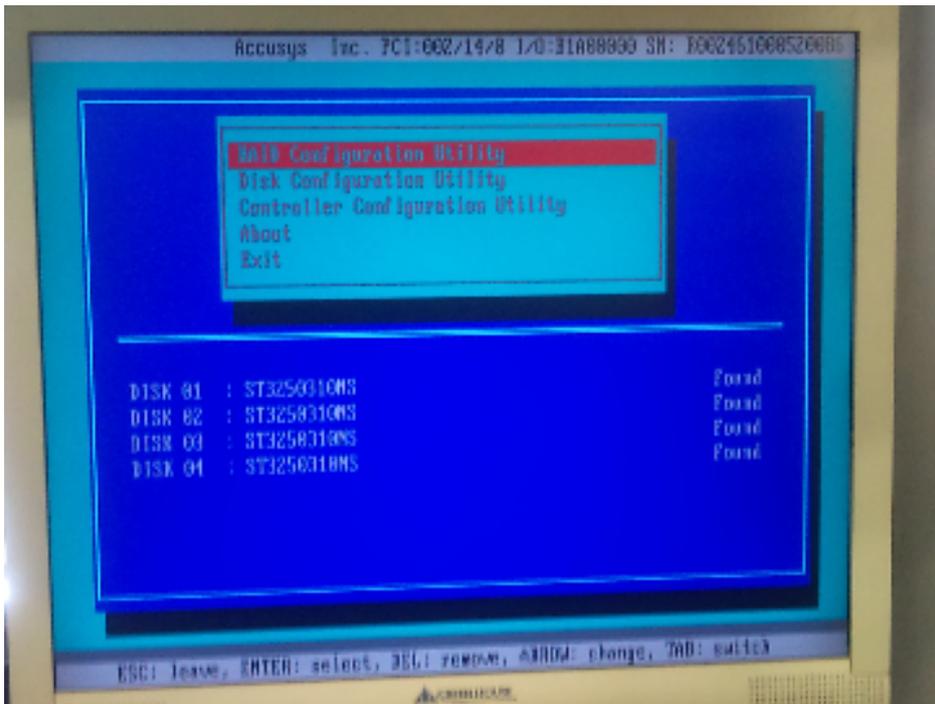
OS インストール領域としてご利用になる場合は、ある程度のサイズにスライスしてからご利用ください、



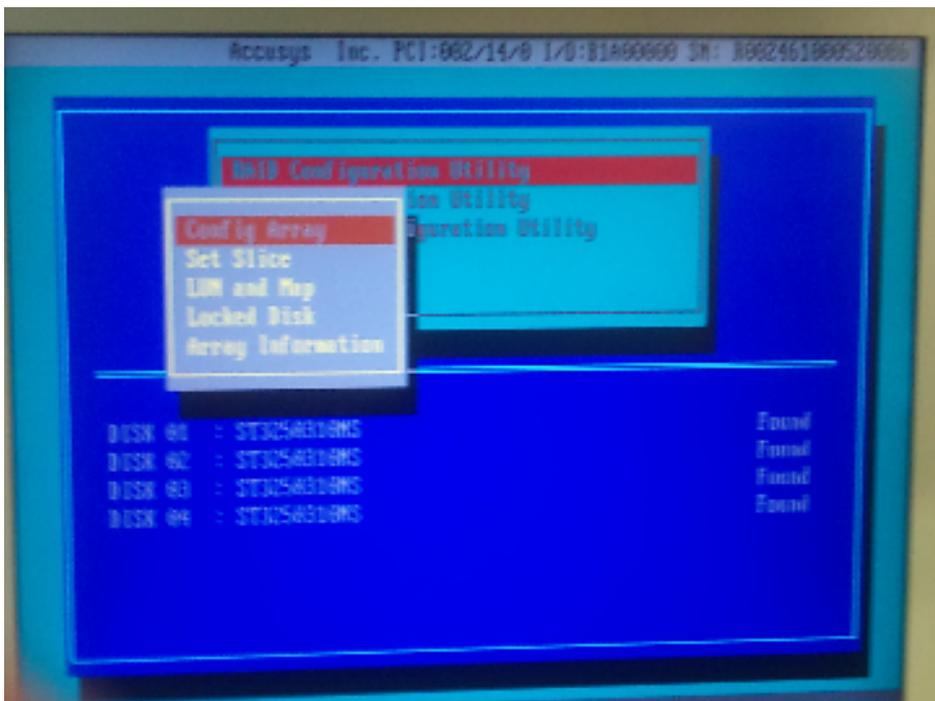
”Enter” キーを押してください。



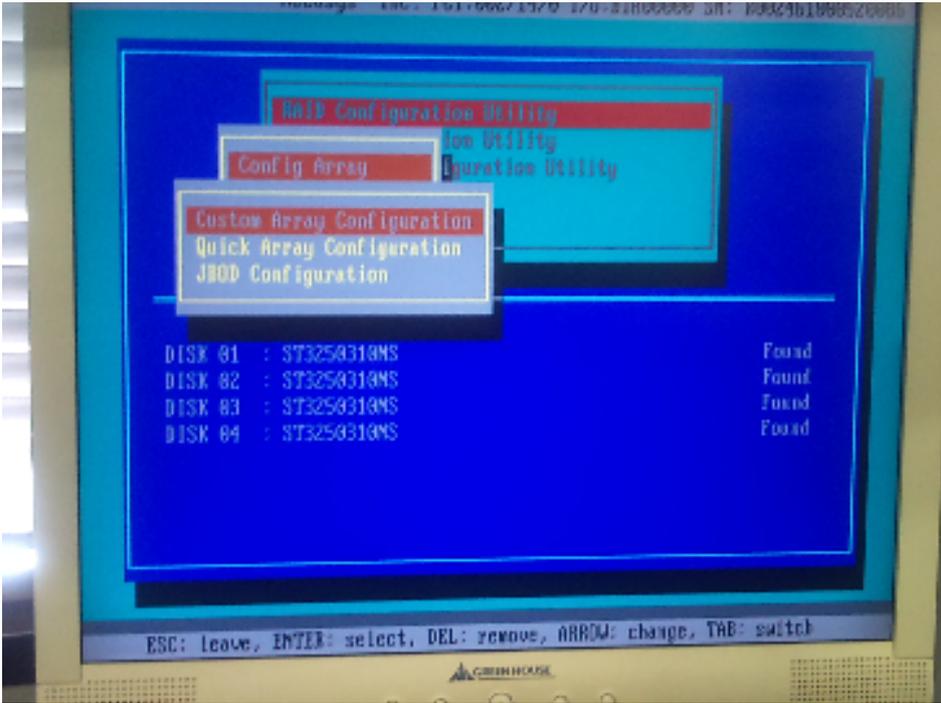
パスワードを聞いてきますので、“00000000”を入力してください。



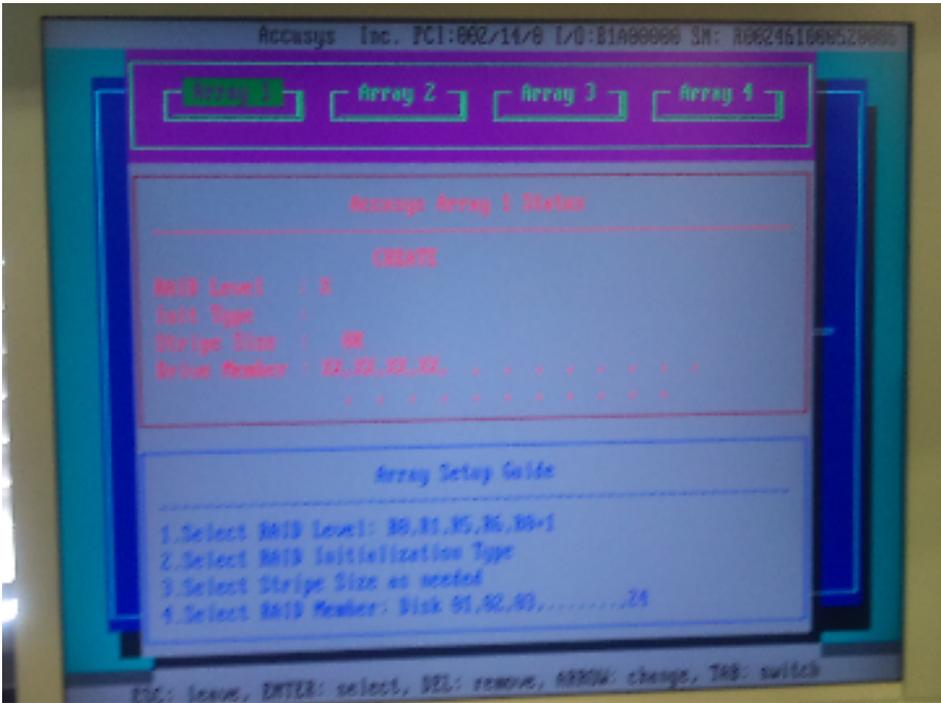
RAID Configuration Utility を選択し Enter をしてください。



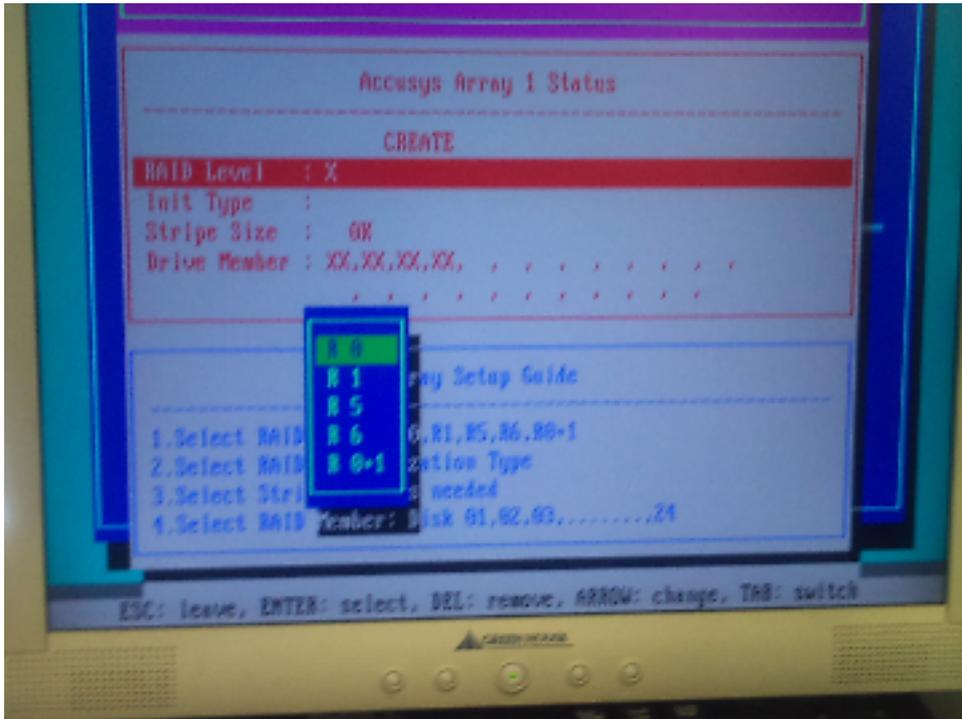
Config Array を選択し Enter をしてください。



Custom Array Configuration を選択し Enter をしてください。

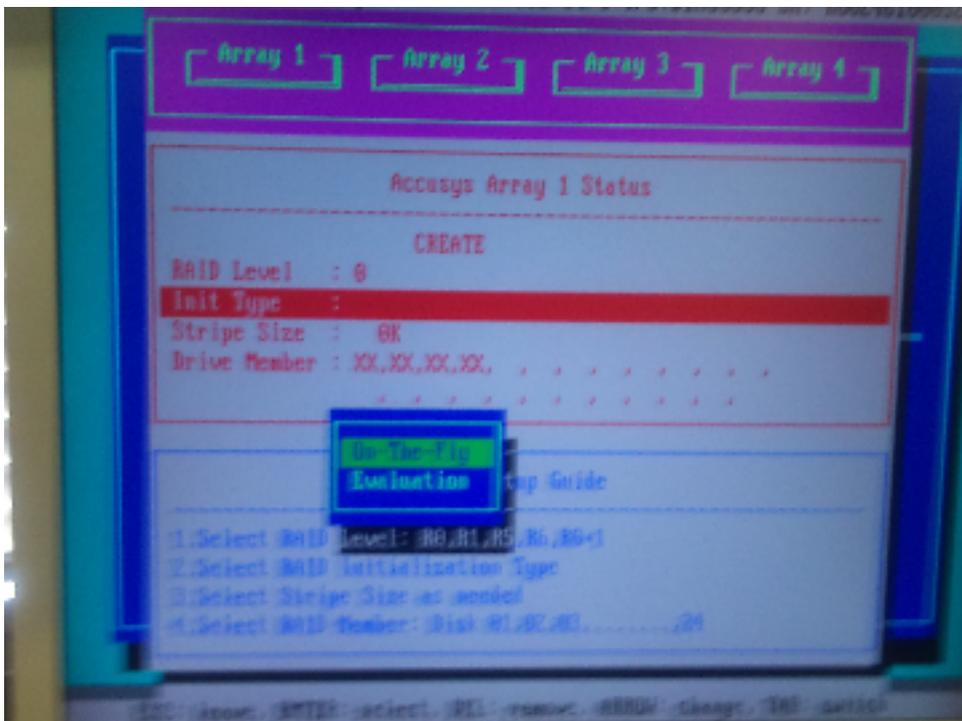


Array1 を選択し Enter をしてください。



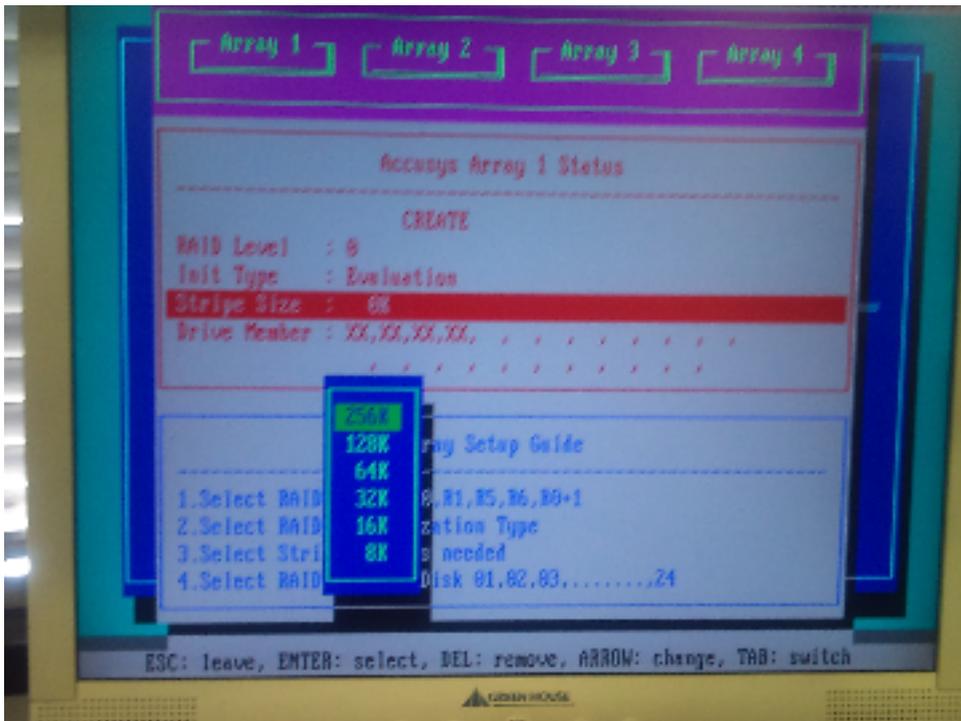
キーボードの上下で移動し、RAID Level を選択してください。

R0 : RAID0 , R1: RAID1 , R5: RAID5 , R6: RAID6 , R0+1: RAID0+1

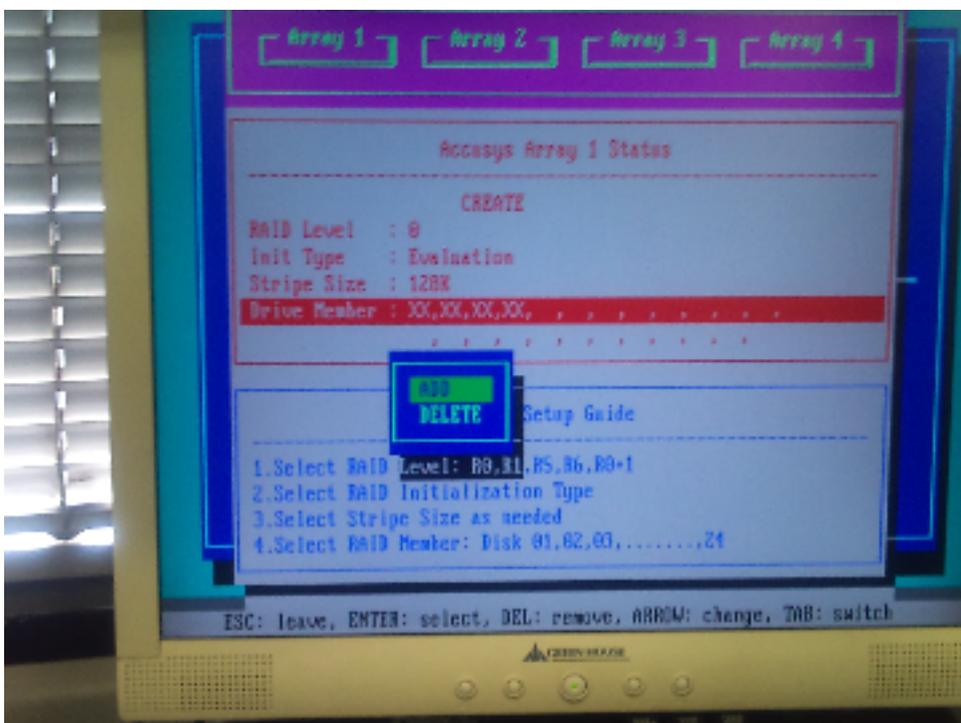


Init Type を選択します。 ※通常は、On-TheFly を選択し Build を行ってください。

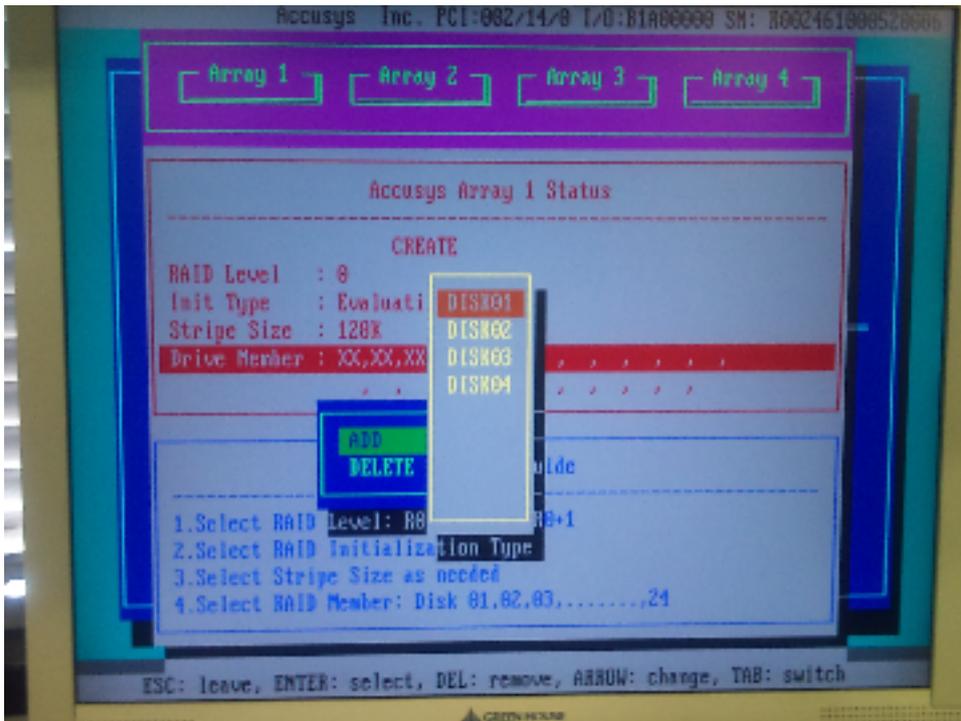
Evolution では、初期化を行わないテストモードとなります。



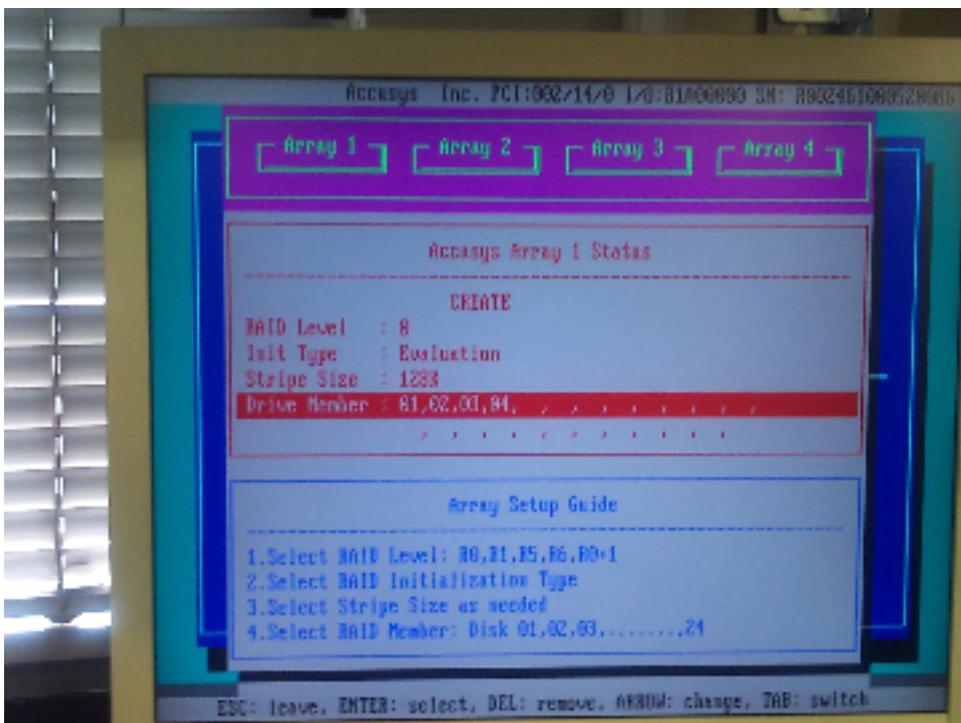
StripeSize を選択してください。通常は、64K でいいかと思いますが、映像データなどのご利用環境が明確な場合は、128k や 256k に設定したほうがパフォーマンスがよくなる場合があります。 256k 時にはブートデバイスに設定するとエラーとなります。



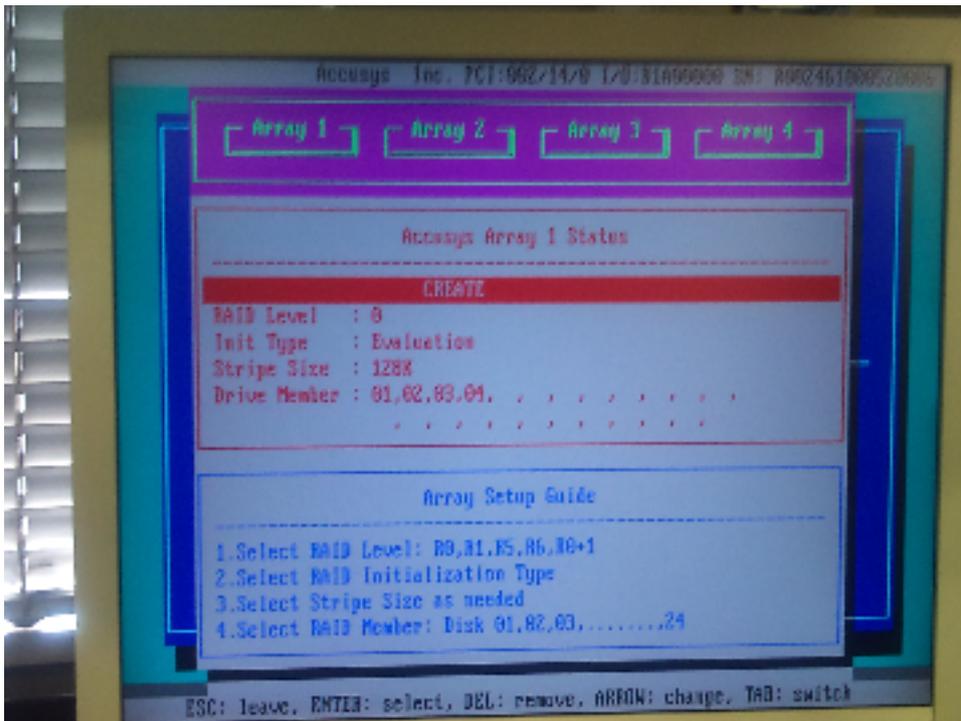
Drive Member を選択します。 Add で加えていってください。



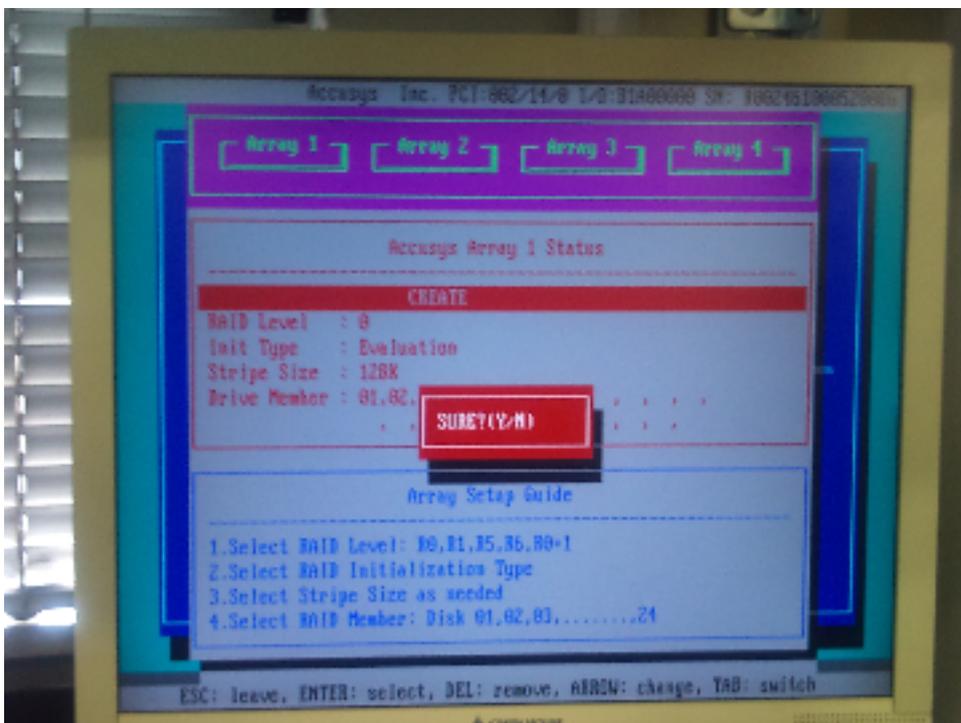
Enter で選択。



Array 1 に参加させる Disk が選択されたことを確認してください。

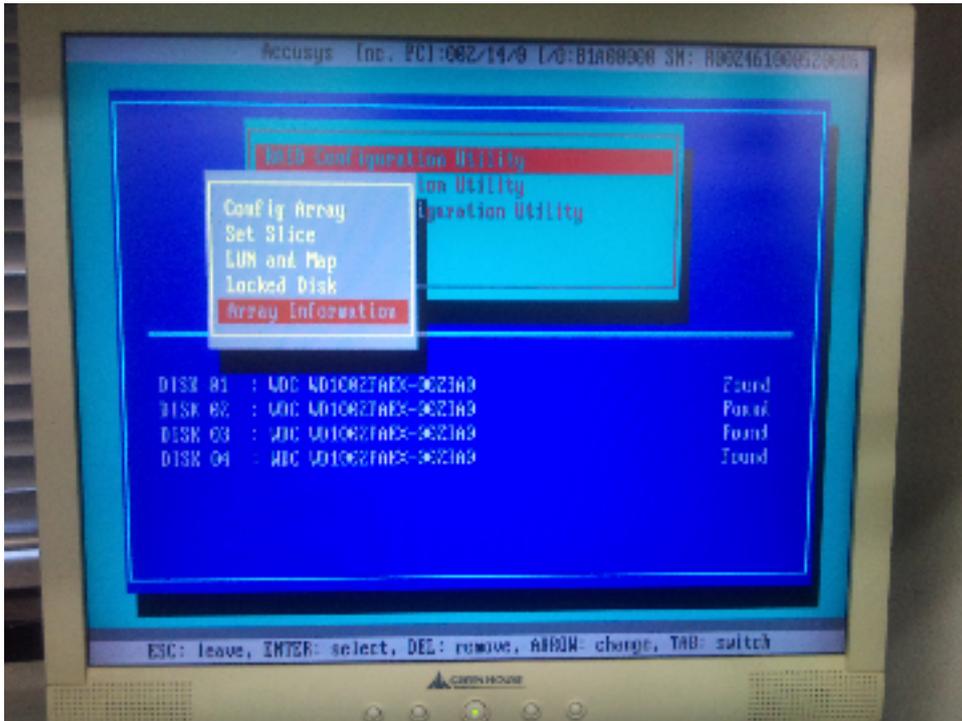


キーボードの上下で、CREATE まで移動し、Enter をしてください。

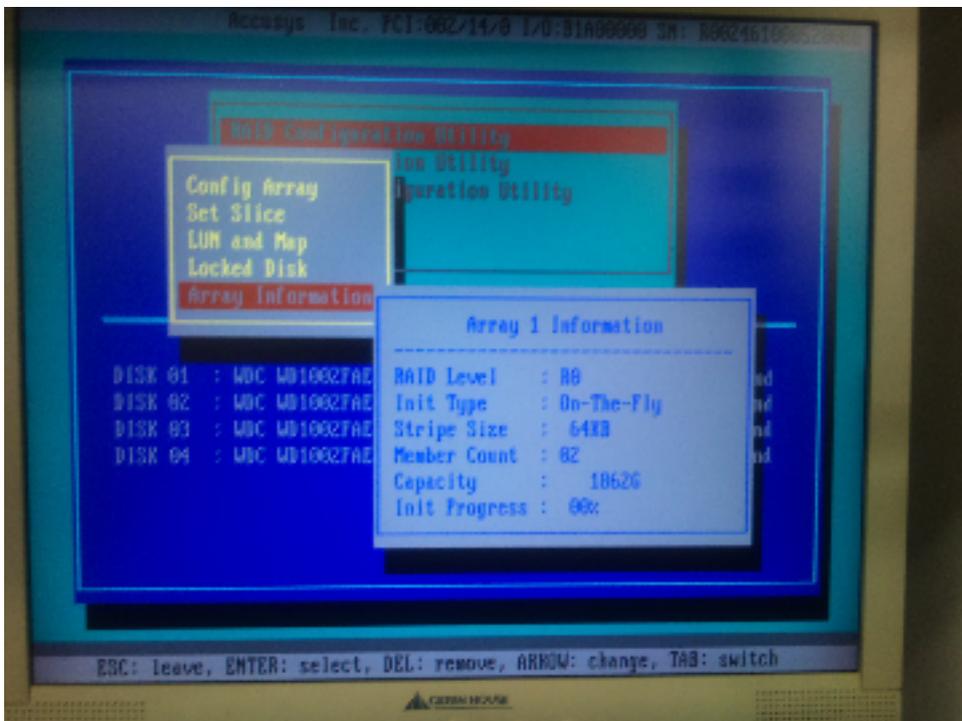


Y を選択してください。

その後、ピッ、ピッという定期間隔音がするようになり Build が開始されます。



Build の状況は上記の、
RAID Configuration Utility > Array Information にて確認できます。

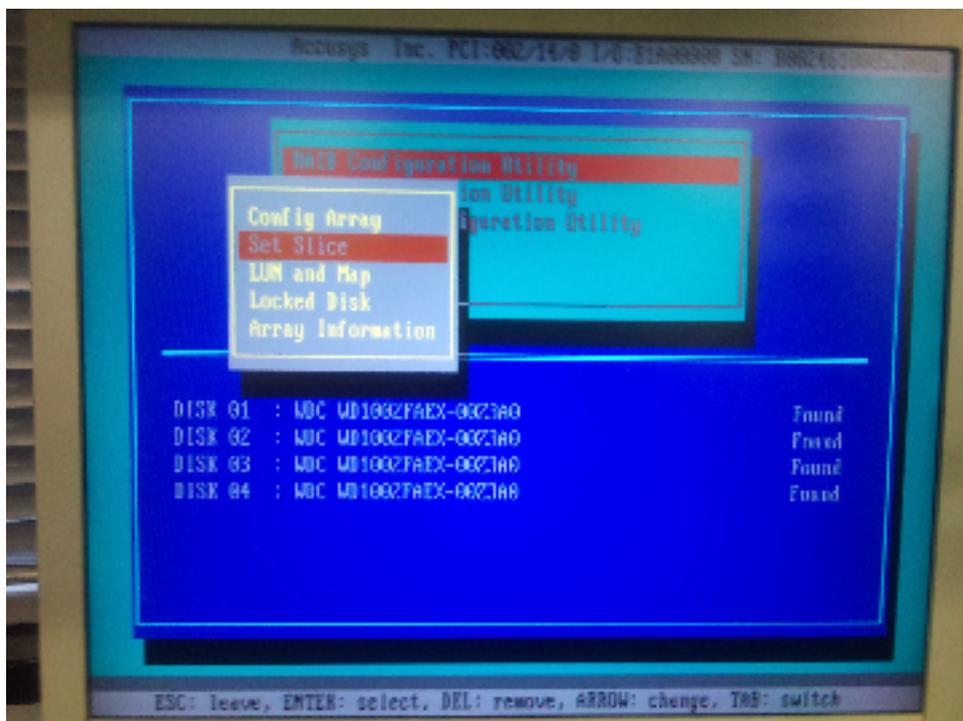


通常はここで作業は完了です。

1-2. OS をインストールする。

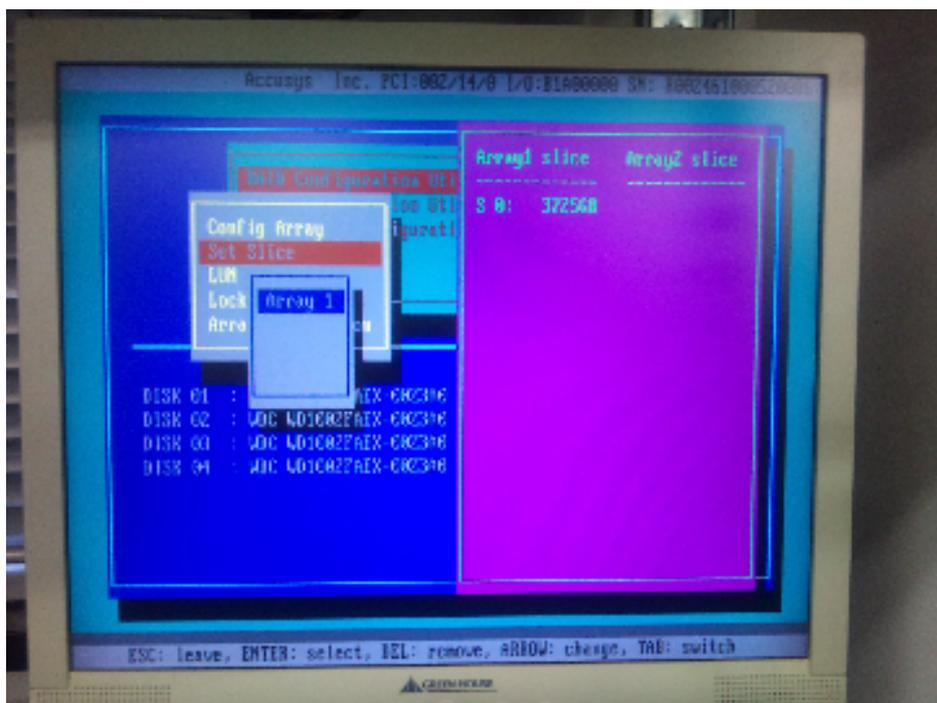
OS のインストール領域は 2TB 以内にしてください。

その為、それ以上の容量を RAID で構成した場合は Slice 等の設定をおこなう必要があります。 また WindowsXP の場合は 2TB できる必要があります。

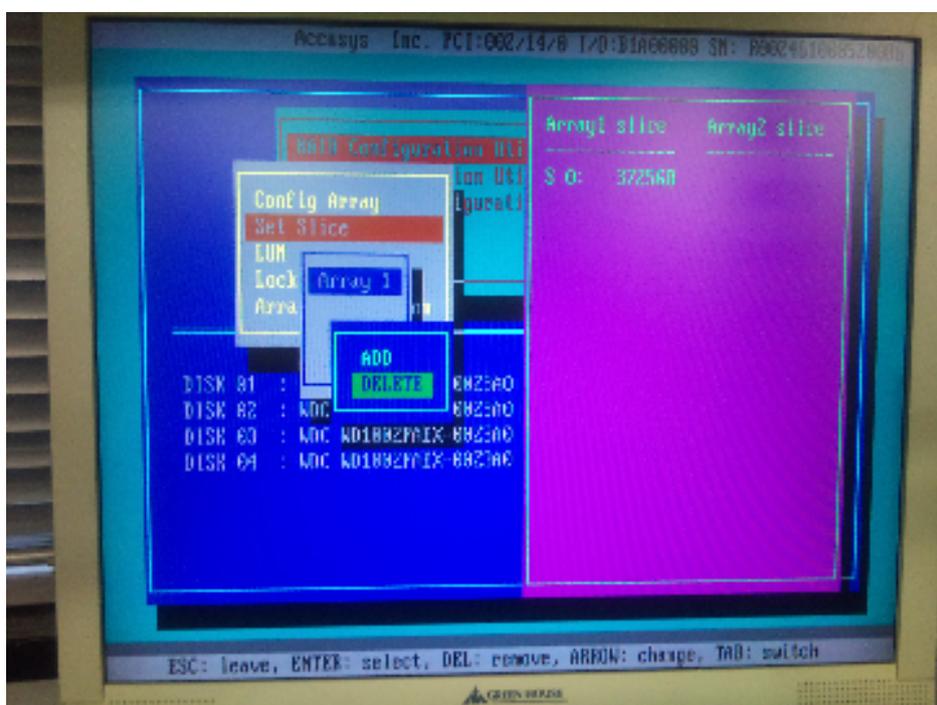


RAID Configuration Utility > Set Slice を選択

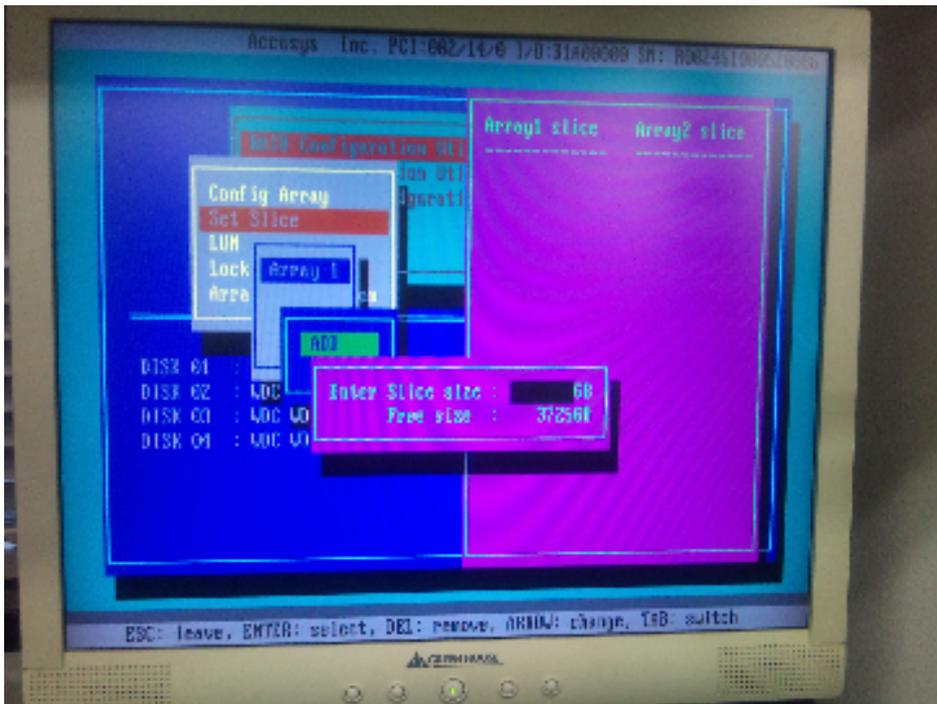
ここでは、Slice の機能を使用し 100GB の OS インストール領域とデータ領域を作成いたします。



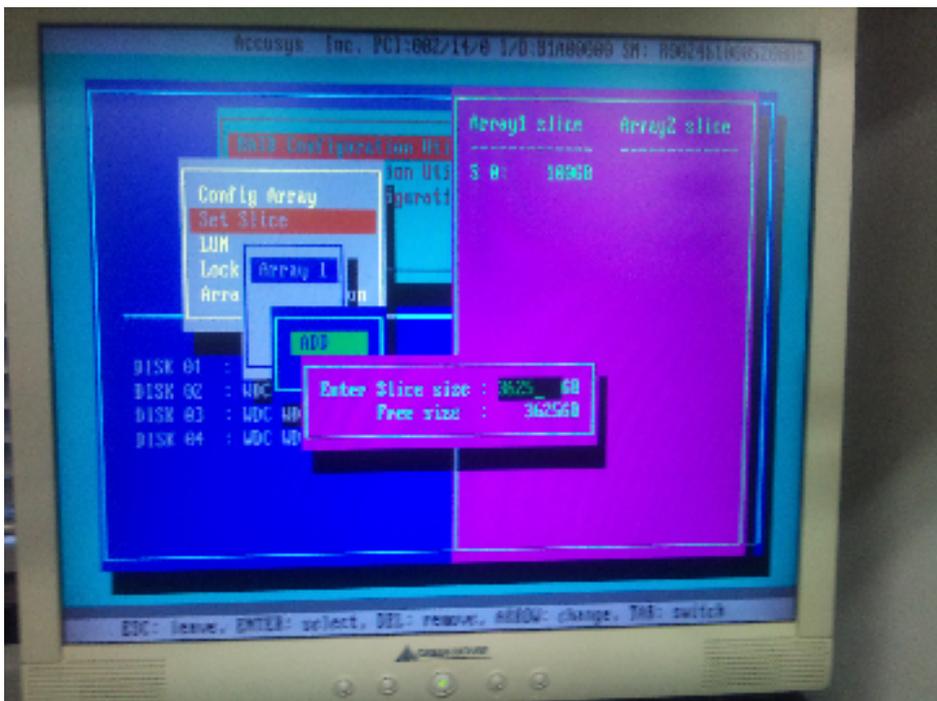
通常は、Array1 に先ほど作成された Array がそのまま認識されます。
 上記は、4TB がマウントされています。



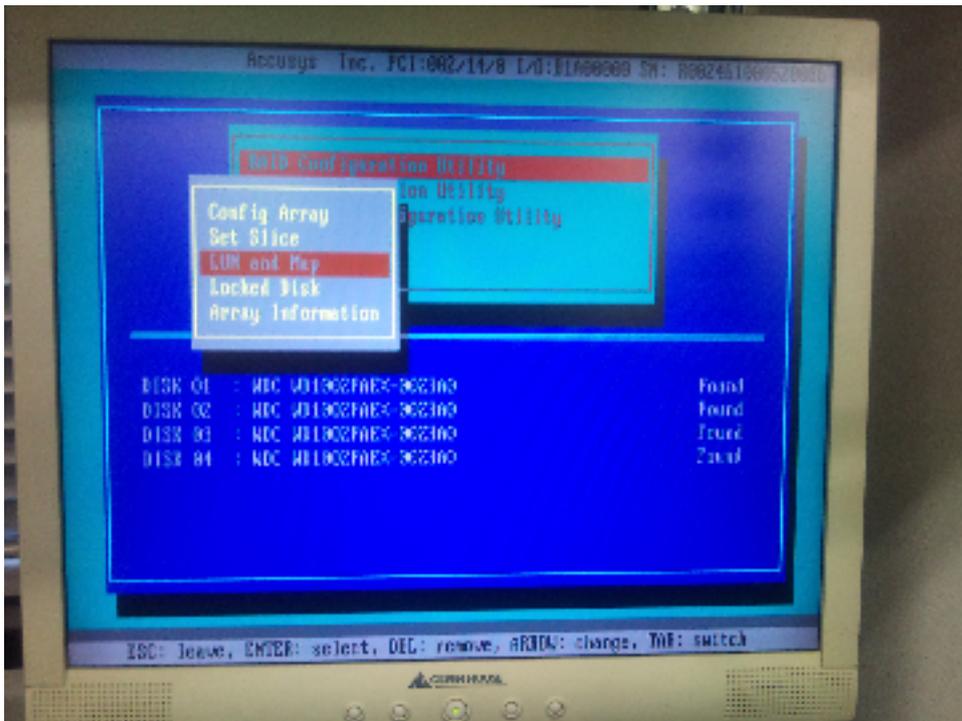
DELETE で現在の Slice を削除します。



削除後、に ADD を選択し、任意のサイズを作成します。



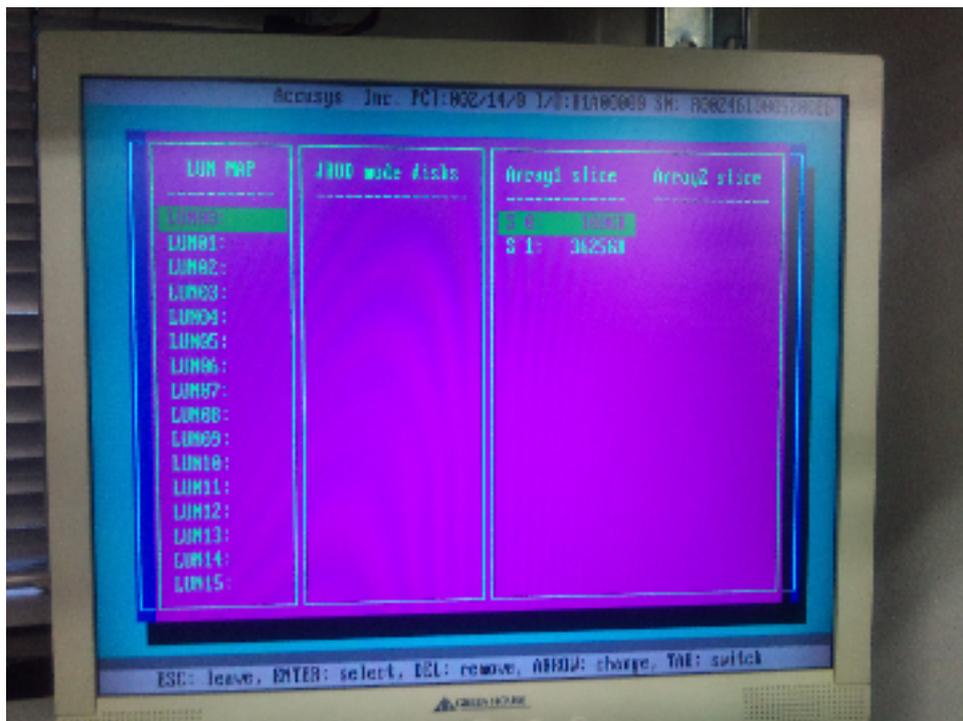
ここでは、
100GB の OS インストール領域と 3625GB のデータ領域を製作します。



次に Lun をマッピングするために、LUN and Map を選択



現在の状態ではマッピングされておきませんのでマッピングをします。



LUN0 を選択肢、S0 100GB を選択してください。

このとき、LUN1 に S1 を割り当ててしまうのが本来正しいのですが、後述の WindowsOS のインストールでこのデバイスに OS をインストールすることができません。というエラーが出るときには、LUN0 のみマッピングし、LUN1 はマッピングせずそのままにしてください。

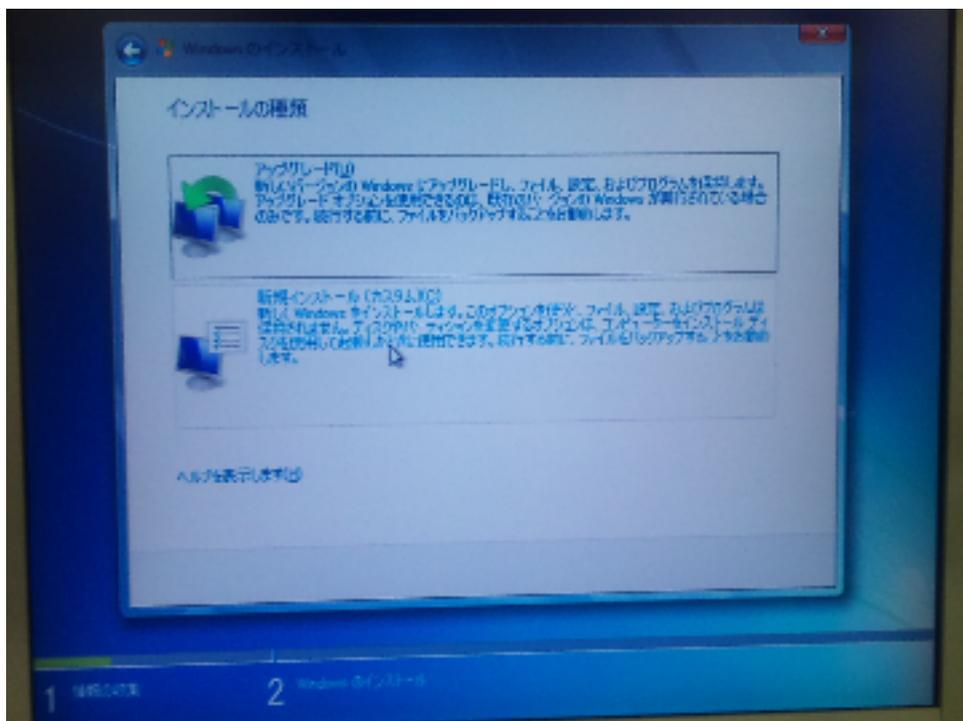
単体 HDD でご利用になりたい場合は、RAID Member に設定していない HDD を JBOD に設定し、LUN マッピングで JBOD に割り当てた HDD が表示されますので、RAID Array をマッピングしたように割り当ててください。

JBOD に設定しただけでは、マウントすることはできません。

1-3.OS のインストール

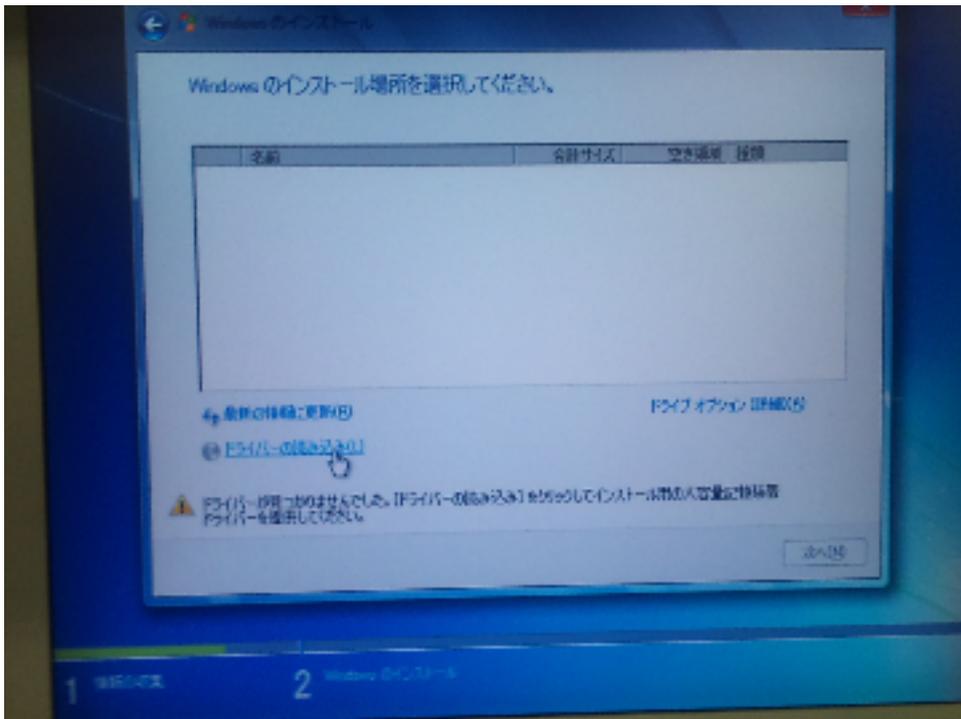
ここでは Windows7 を前提に作業しております。 他 OS の場合には近似値を置き換えて考えてください。

OS のインストールに必要な Driver は別途 USB デバイス等でご用意ください。

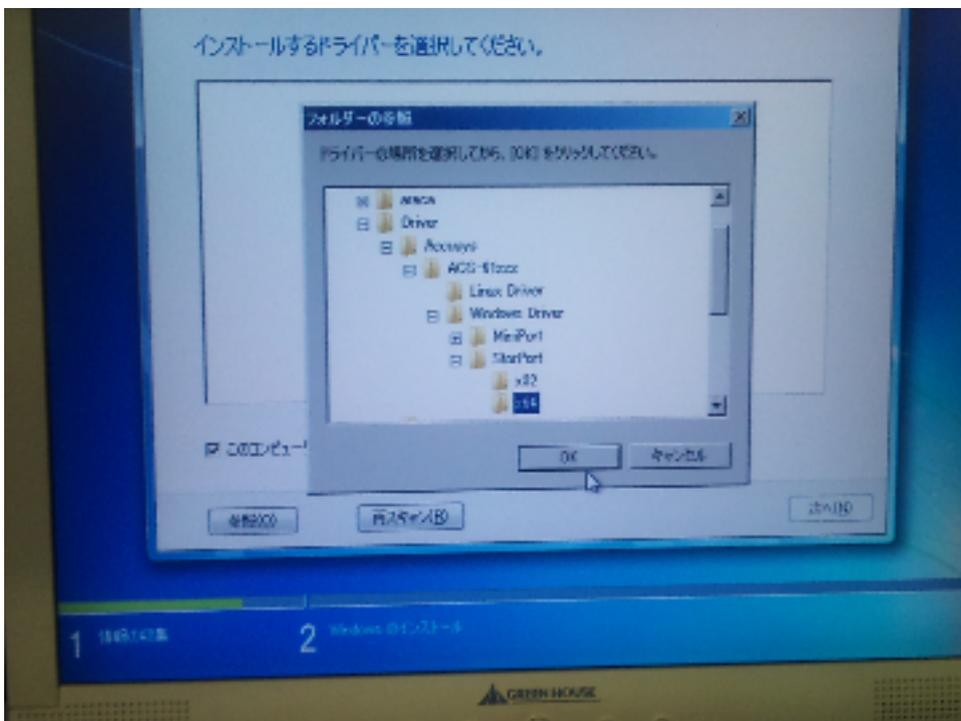


上記のような画面になるまで任意作業してください。

新規インストールを選択



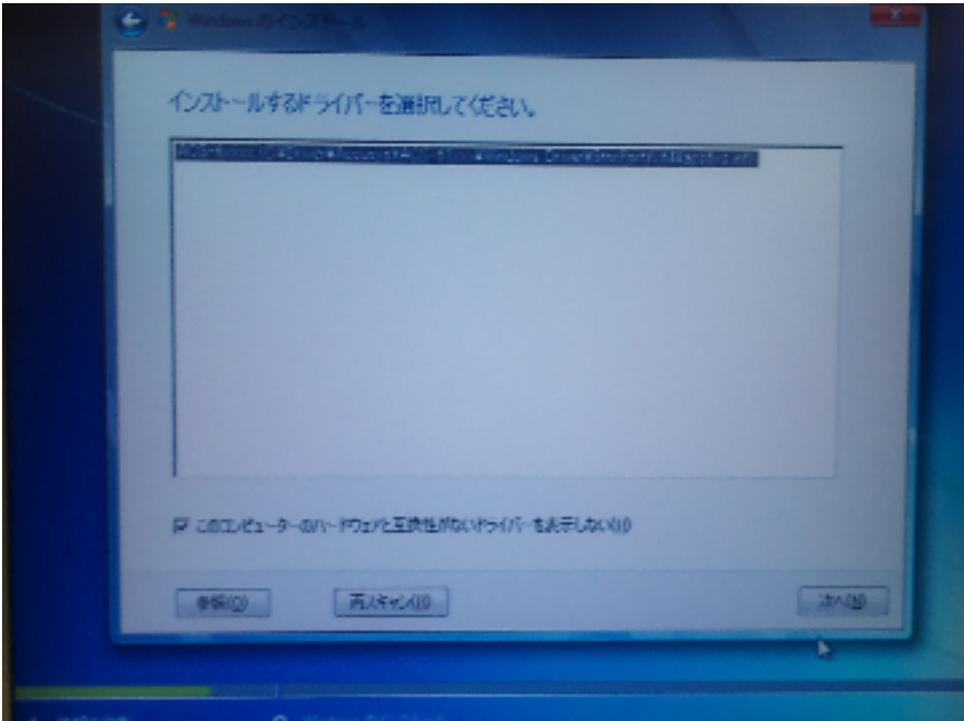
ドライバーの読み込みを選択



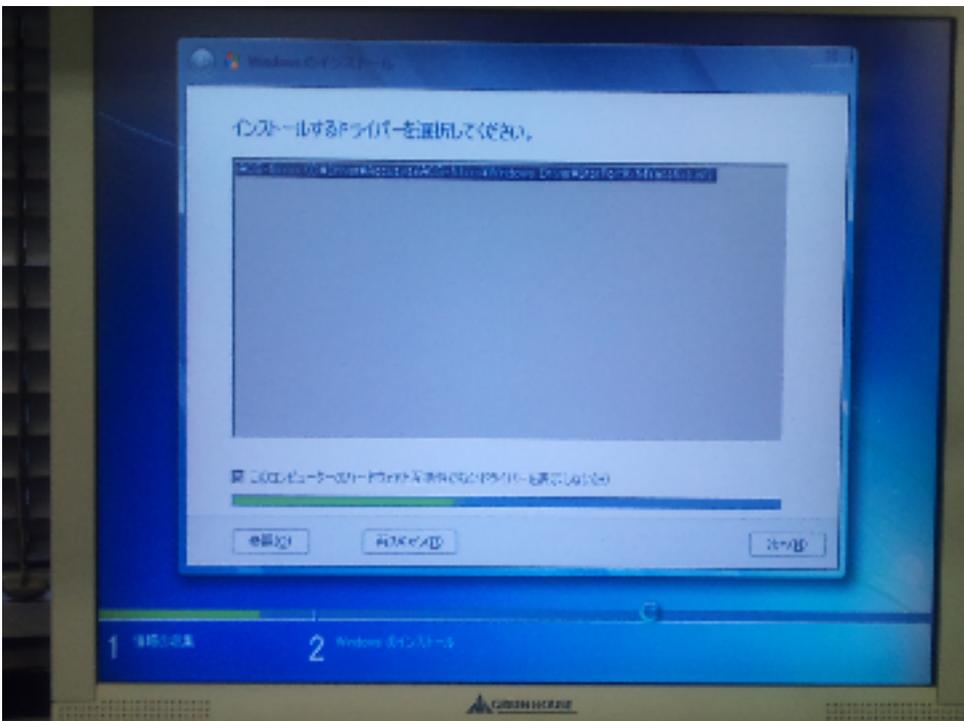
Driver のある USB デバイス等を選択してください。

Storport Driver は Windows Vista, Windows 2008, Windows 7 にのみ使用してください。

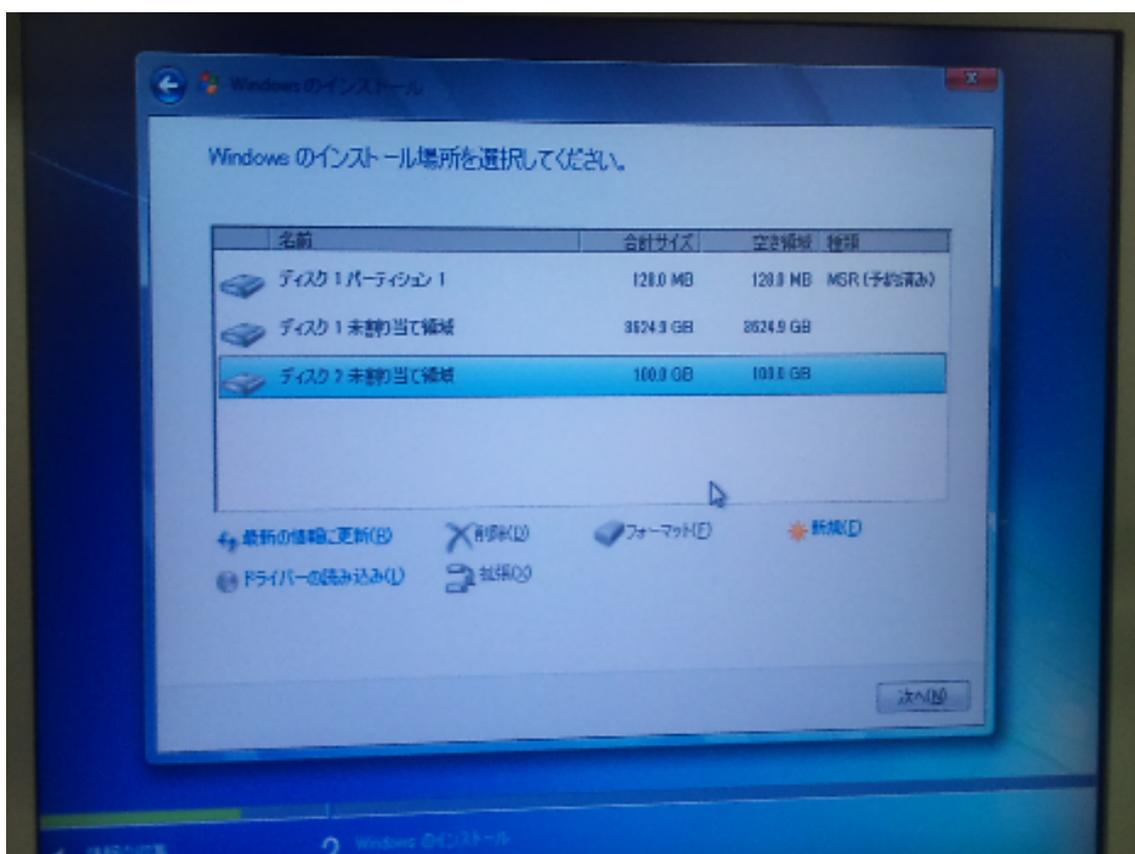
Miniport Driver は Windows 2000, Windows XP, Windows 2003 にのみ使用してください。



Driver が選択されたら次へを選択。



しばらくお待ちください。



上記のように、ディスクの認識順序が逆になってしまう場合がありますが、ドライブレータの読み込みにおける Windows の問題のため現状では回避策がございません。
また、現在のところ 2TB 以上のデバイスには OS をインストールすることはできません。
100GB のデバイスを選択し、新規にパーティションを作りインストールを開始してください。
このとき、インストールできないデバイスとなる場合、もう一度再起動をして操作を繰り返してみてください。

この後の作業は Windows のインストール作業となるので任意に行ってください。

2-1. GUI ツールのインストール

本 GUI は JAVA で動作します。

その後、InstallPackage よりユーティリティのインストールとなります。

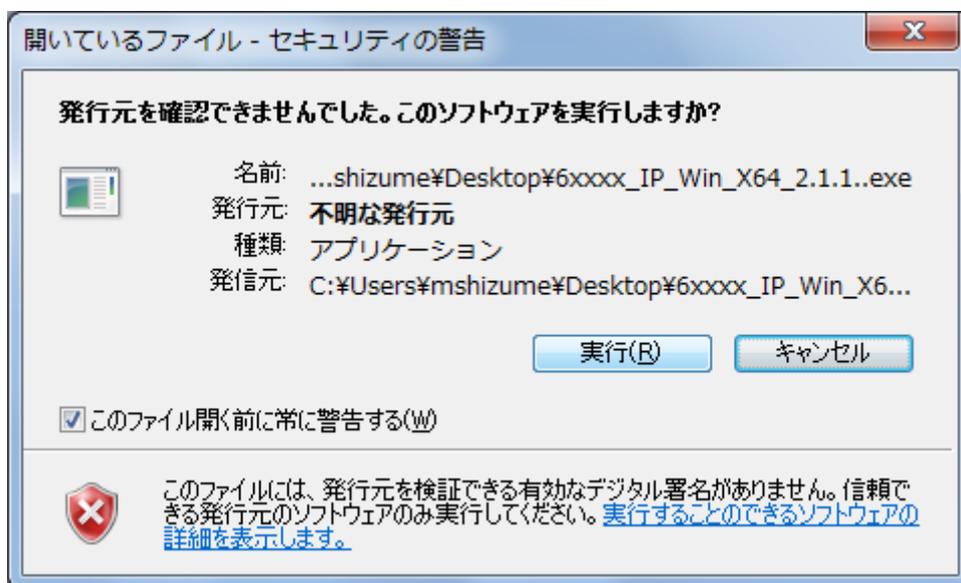
- ※ ここでも 32bit 版と 64bit 版とあります。 環境を確認の上インストールしてください。
- ※ Driver の Install が入りますので絶対に間違えないように気をつけてください。
- ※ Install 時に JAVA を最初にインストールされます。



ダブルクリックをしてインストールを開始します。

RAID guasrdX のインストールを行う前に、JAVA のインストールが行われます。

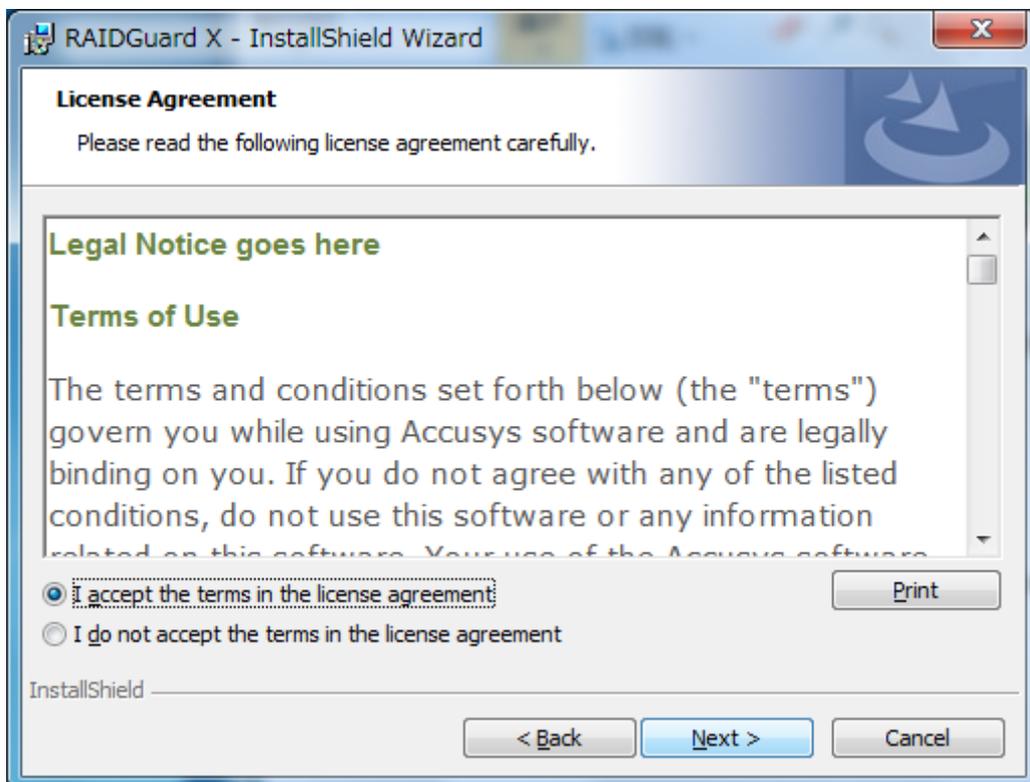
インストール後に、RAID Guard X のインストールとなるので再起動促すメッセージが出るまではそのまま作業を進めてください。



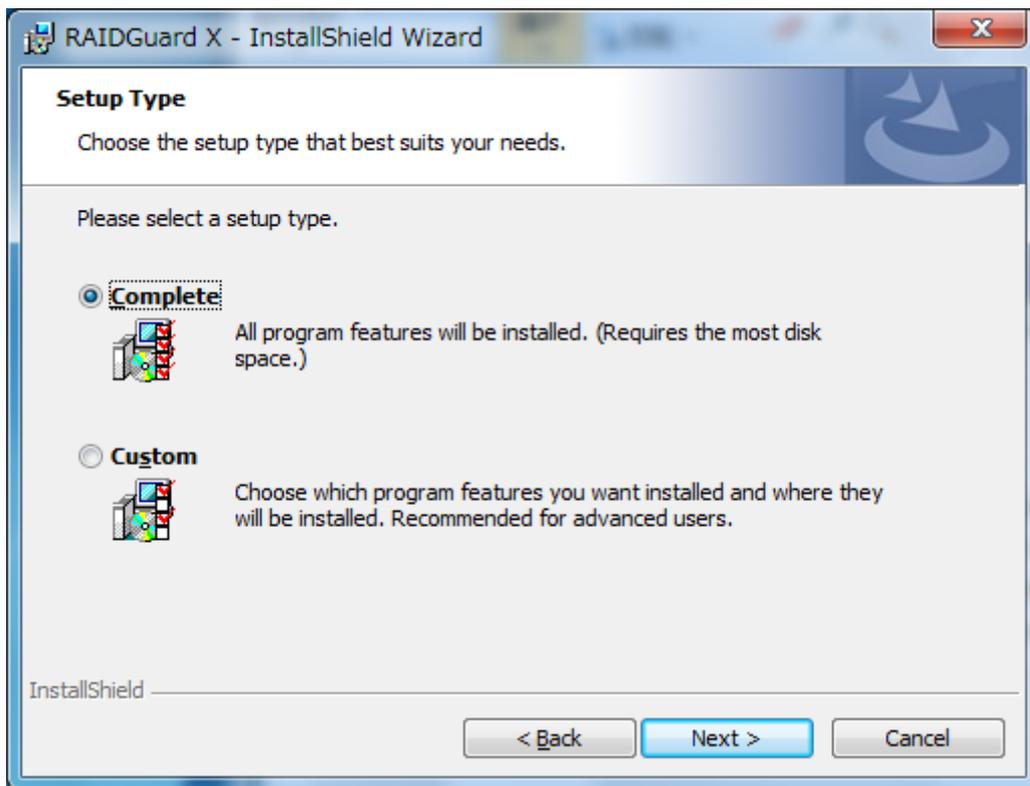
実行をクリック



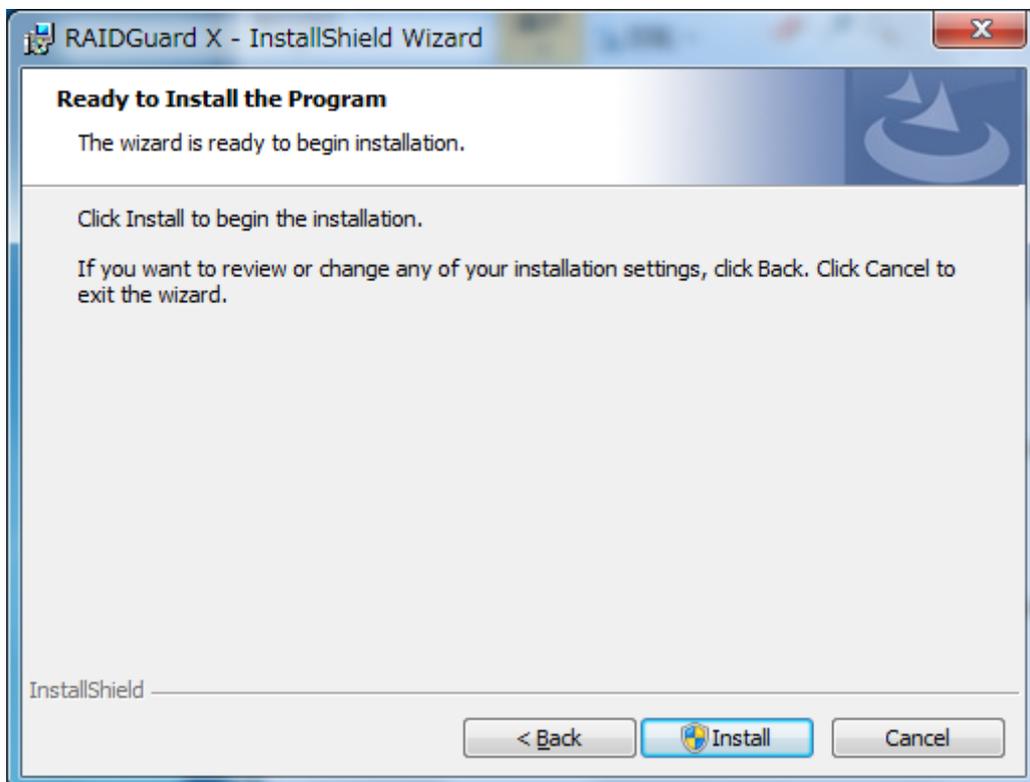
Next> をクリック



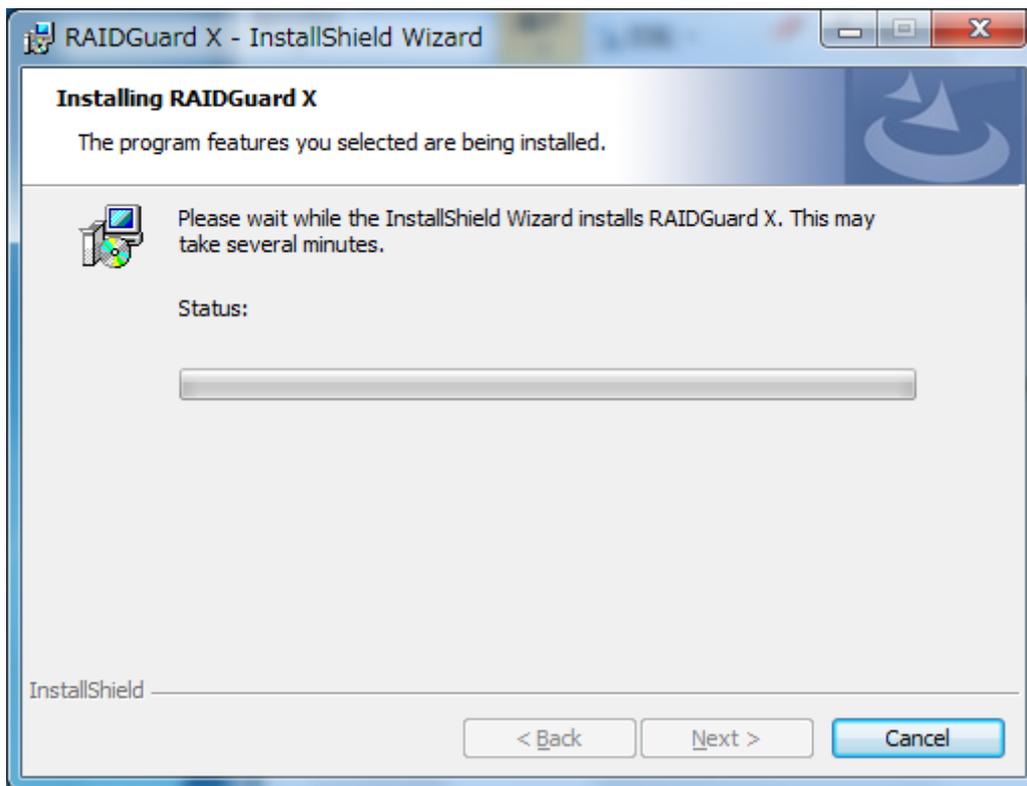
I accept . . . のほうを選択し、 Next> をクリック



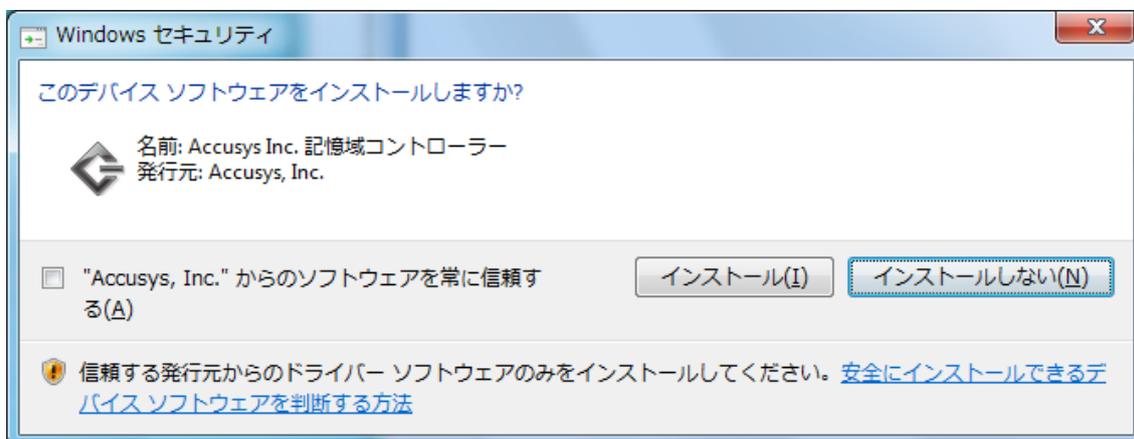
Complete になっていることを確認し、 Next> をクリック



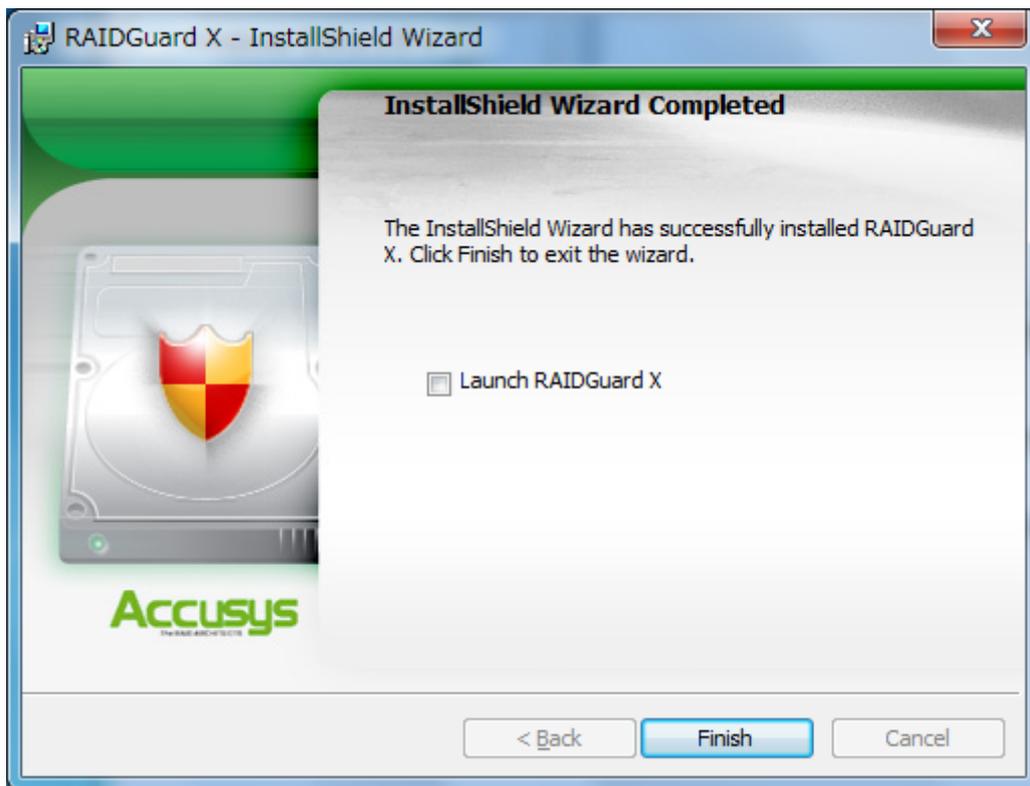
Install をクリック



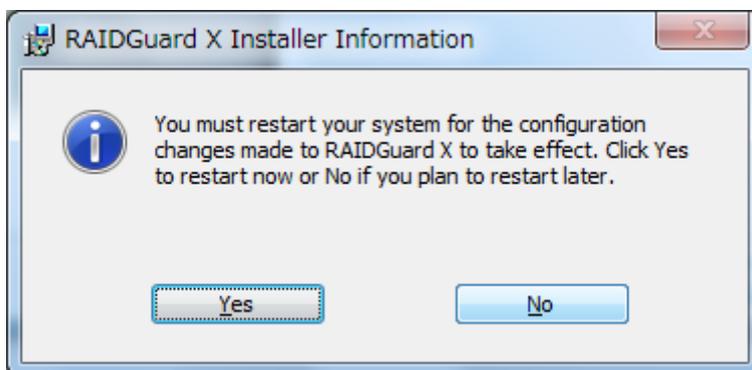
しばらくお待ちください。



再度 Driver のインストールとなるので、お好きなほうを選択してください。

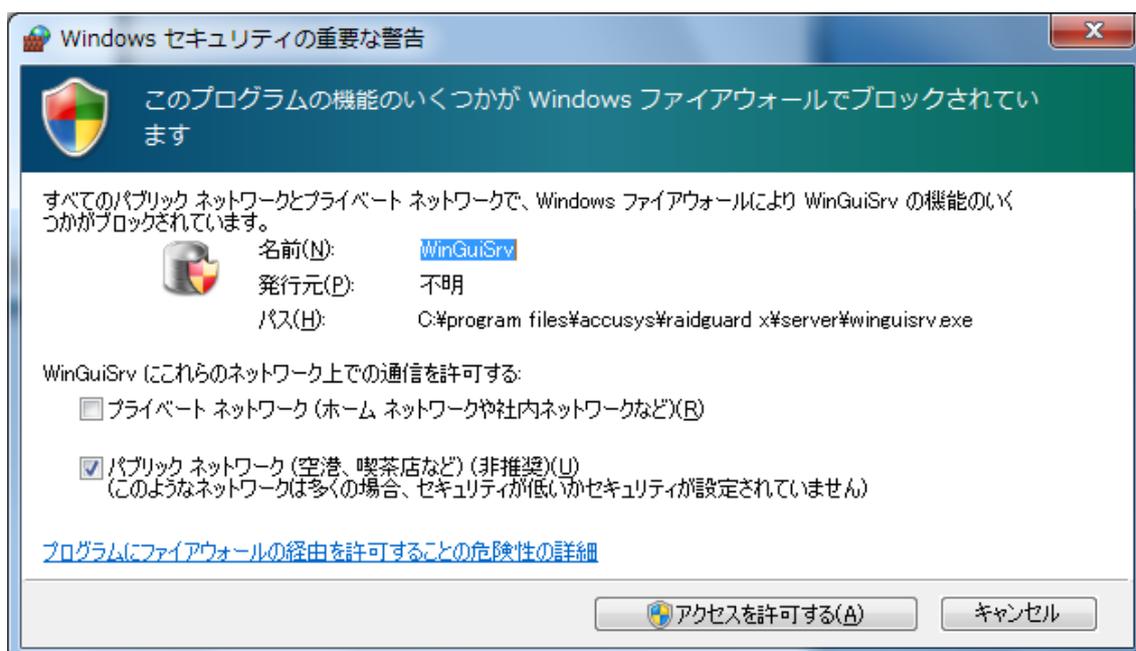
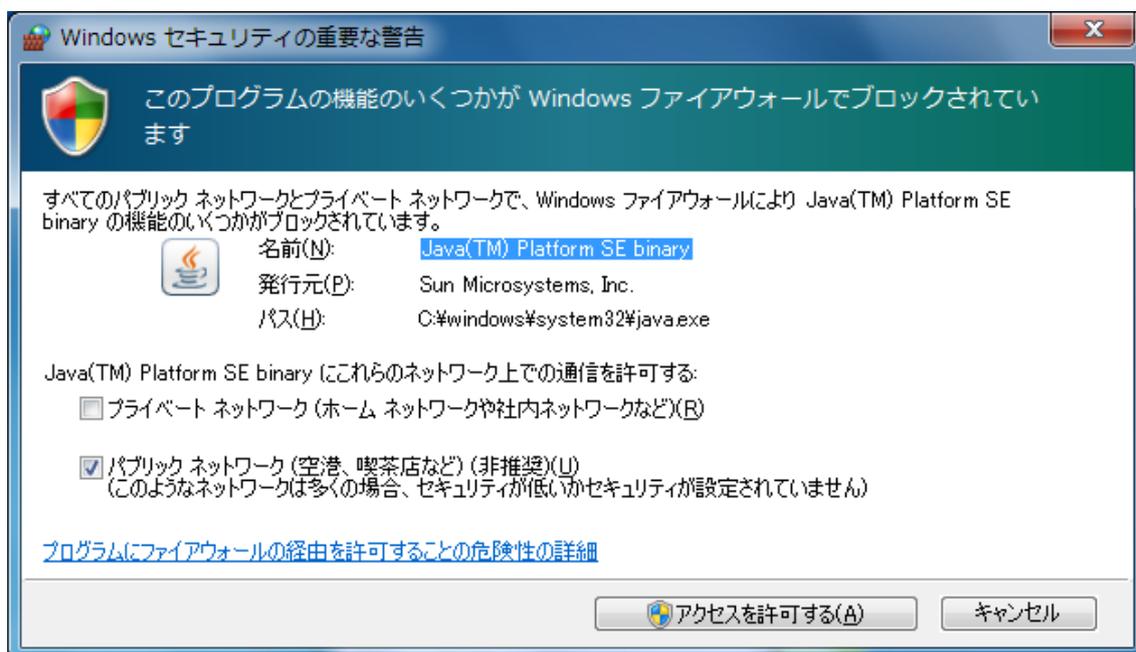


完了したら、Finish を選択肢終了します。



再起動を要求してきますので、 Yes を選択し PC を再起動してください。

セキュリティの重要な警告が表示されますので、Windows ファイアウォールを許可します。



ともに アクセス許可をする を選択し UAC も許可してください。



ここで、デスクトップにショートカットができていますがまだ起動はできません。

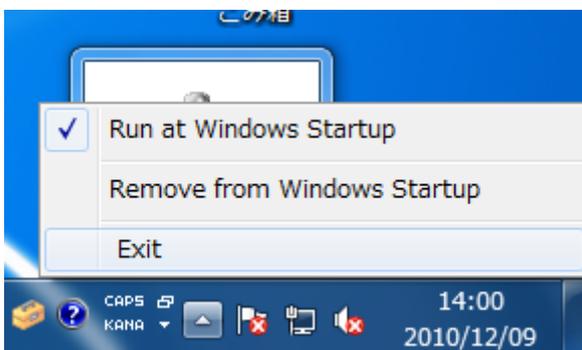


また上記のようなエラーがでて RAID CARD が見つからない。 というエラーが出る場合もありますが、今はまだ無視してください。

起動できない理由は、Windows のもつ UAC に接触しているために発生いたします。



右下の アイコンを選択し、Server プログラムを停止してください。



Exit を選択し、終了をしてください。

現時点では、UAC を停止しなければ本ユーティリティは動作いたしません。

UAC が必須な環境では本ユーティリティはご利用になれません。

RAID Guard X Server と RAID Guard X Client の起動のために UAC を停止します。

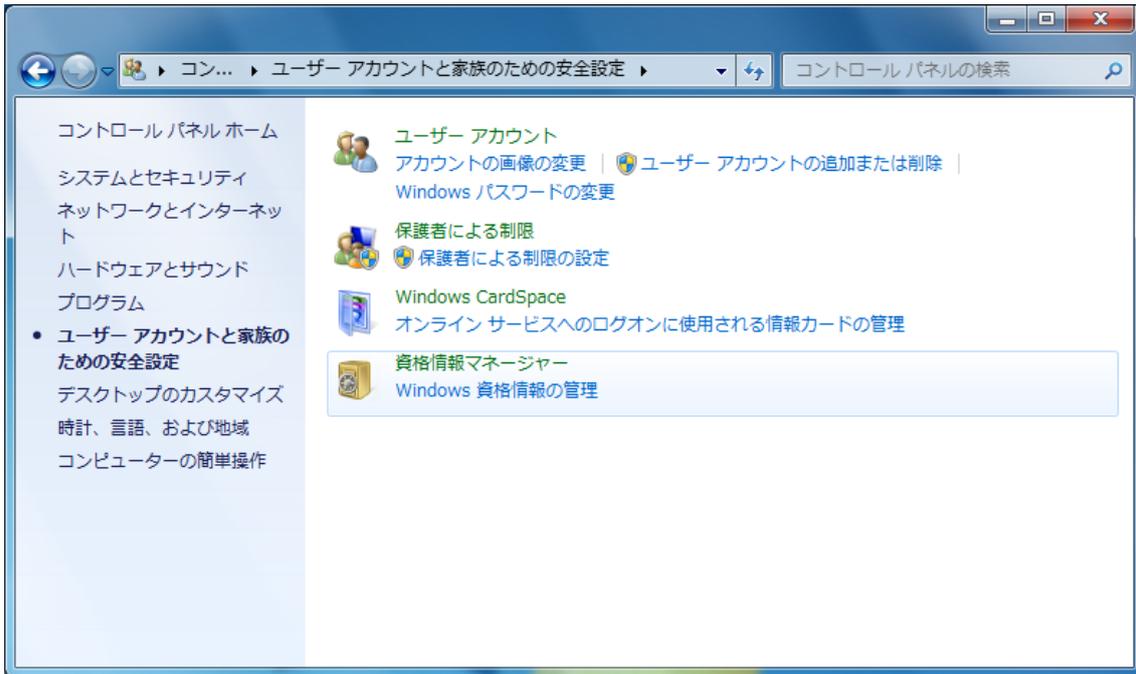
Windows 2008 2008R2 の場合は UAC を OFF にしなくても正常に動作できる場合もありますので任意で操作を行ってください。

- ・ Windows 7 or 2008R2 の場合



Windows ボタン > コントロールパネル で上記画面を開きます。

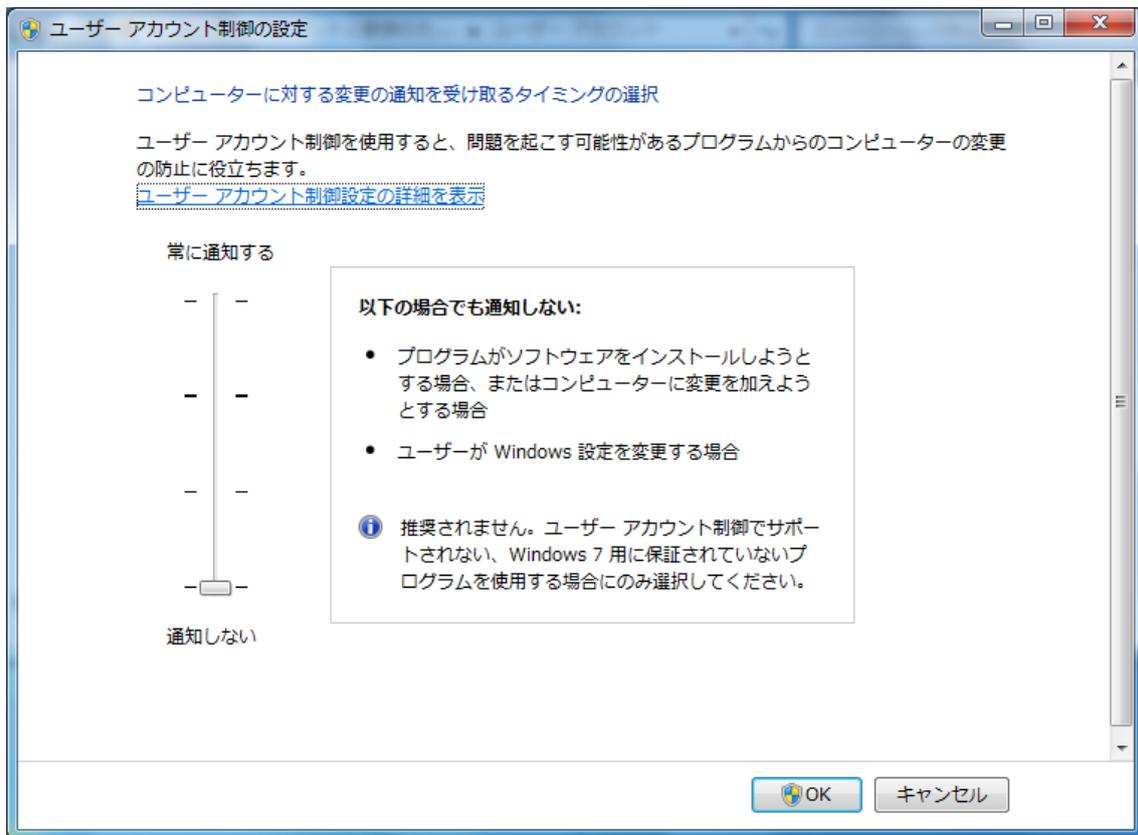
ユーザアカウントと家族のための安全設定 を選択。



ユーザアカウント を選択



ユーザアカウント制御設定の変更 を選択



イコライザを 通知しない に下げ OK を選択します。
その後 Windows を再起動をしてください。

※ UAC 機能は以後働きませんので OS の運用に十分な注意をお願い申し上げます。
またそのことによる弊害に関してはメーカーも代理店も責任を負いかねます。

- ・ Windows Vista or 2008 の場合 ※操作順を列記のみ

Windows ボタン > コントロールパネル >

Vista: ユーザーアカウントと家族のための安全設定 > ユーザーアカウント

2008: ユーザーアカウント > ユーザーアカウント

ユーザーアカウント制御の有効化または無効化

ユーザーアカウント制御 より続行するにはあなたの許可が必要です。

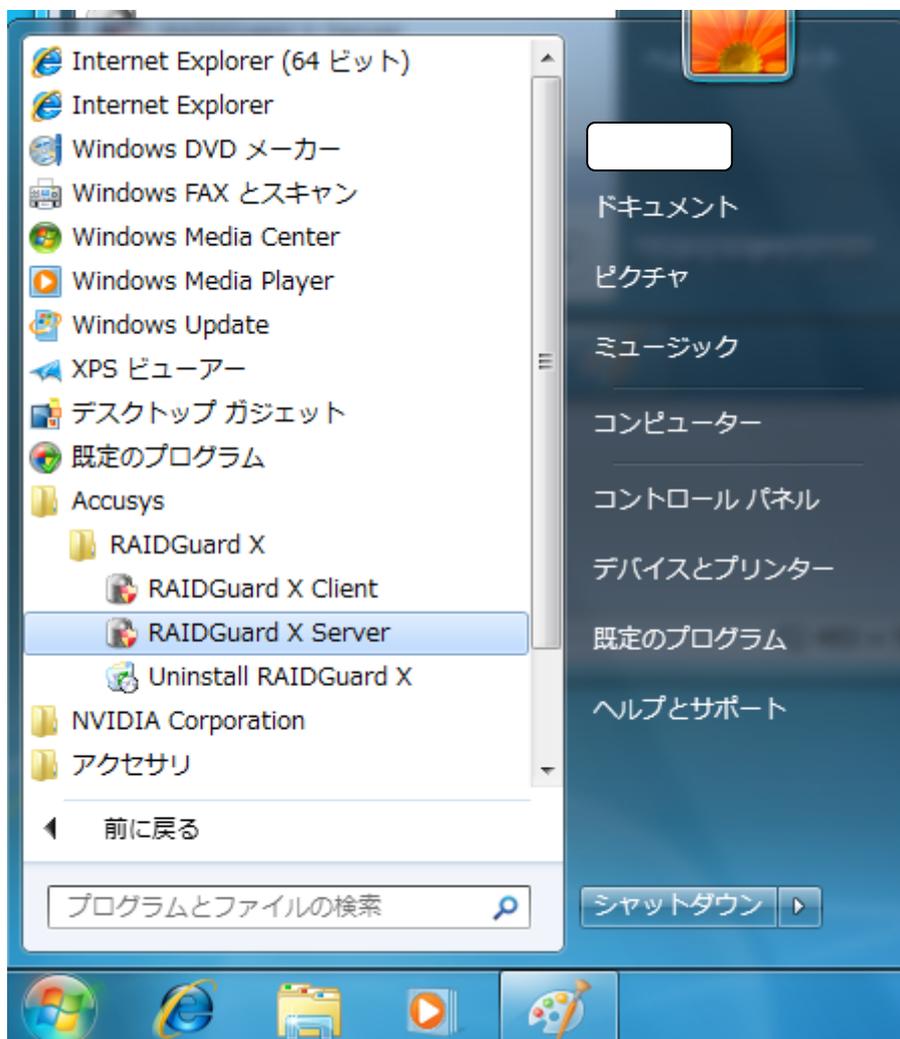
続行 を選択してください。

ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる

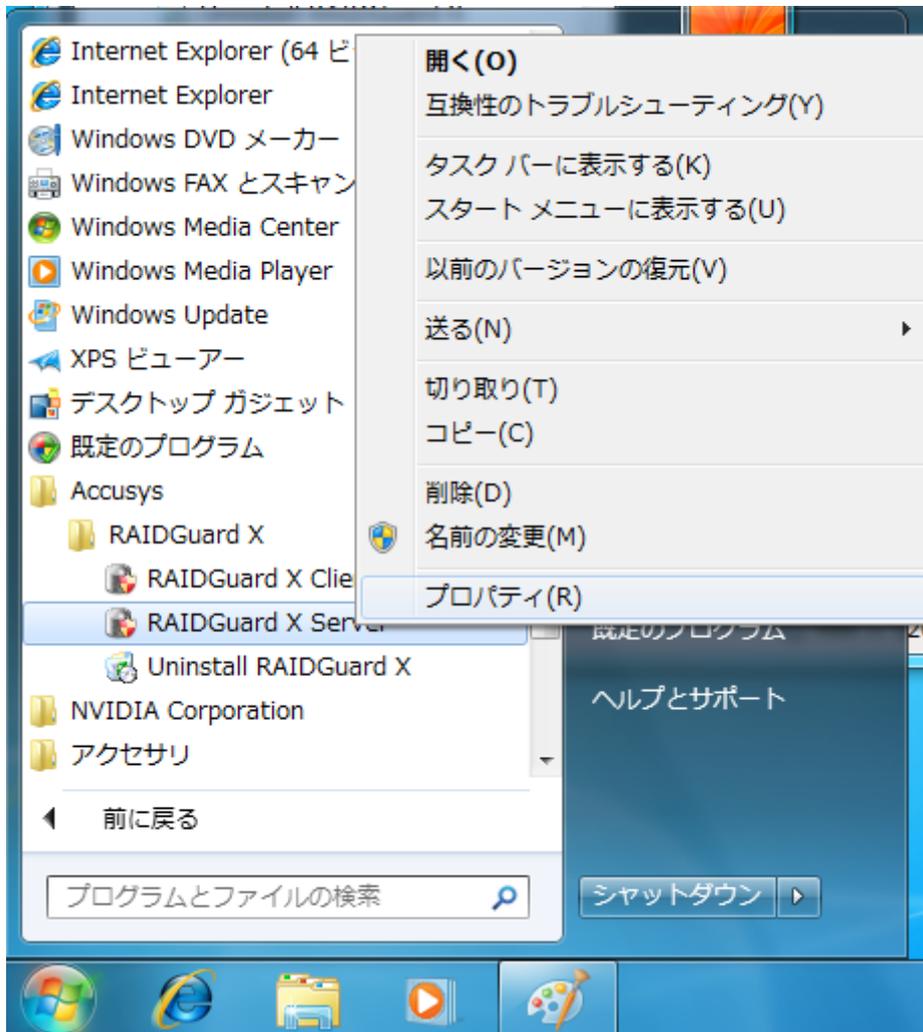
の チェックボックス のチェックをはずしてください。

OK を押し Windows を再起動をしてください。

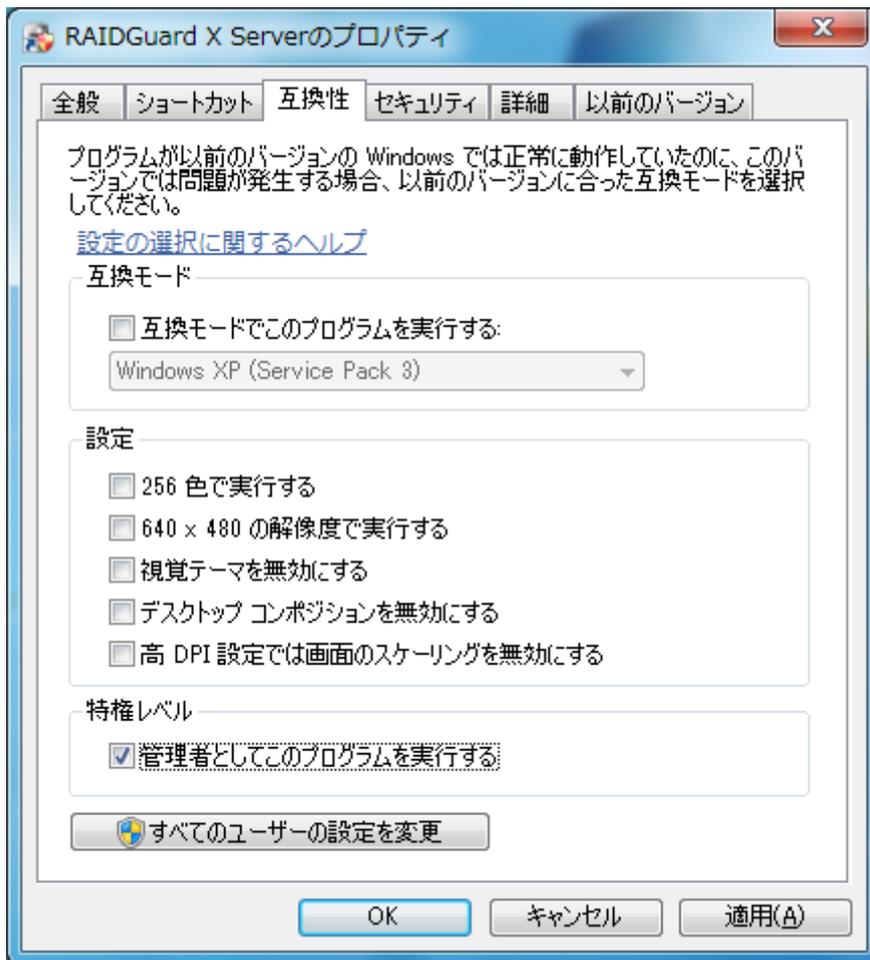
これより先の作業は UAC を ON のままで行う場合の作業です。
メーカーに確認中のため、一部機能が動作しない場合もあります。
予告無く本動作の説明を削除することもあります。



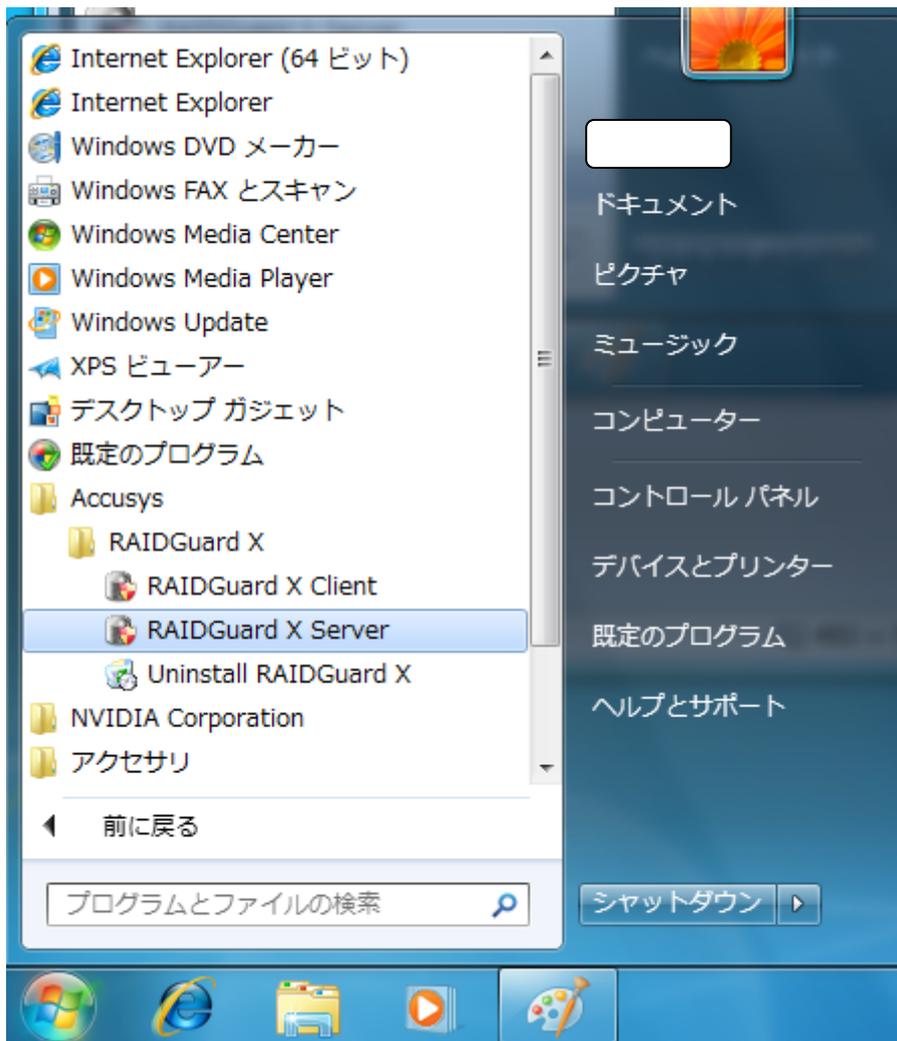
Accusys フォルダ にある RAID Guard X Server を右クリックします。



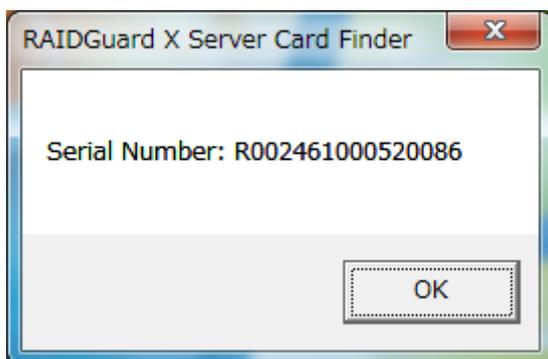
プロパティを選択してください。



互換性 タブ の 特権レベルにある
管理者としてこのプログラムを実行する にチェックを入れてください。
その後 適用をクリックし、OK をクリックします。



再び、 RAID Guard X Server をクリックし、プログラムを起動します。

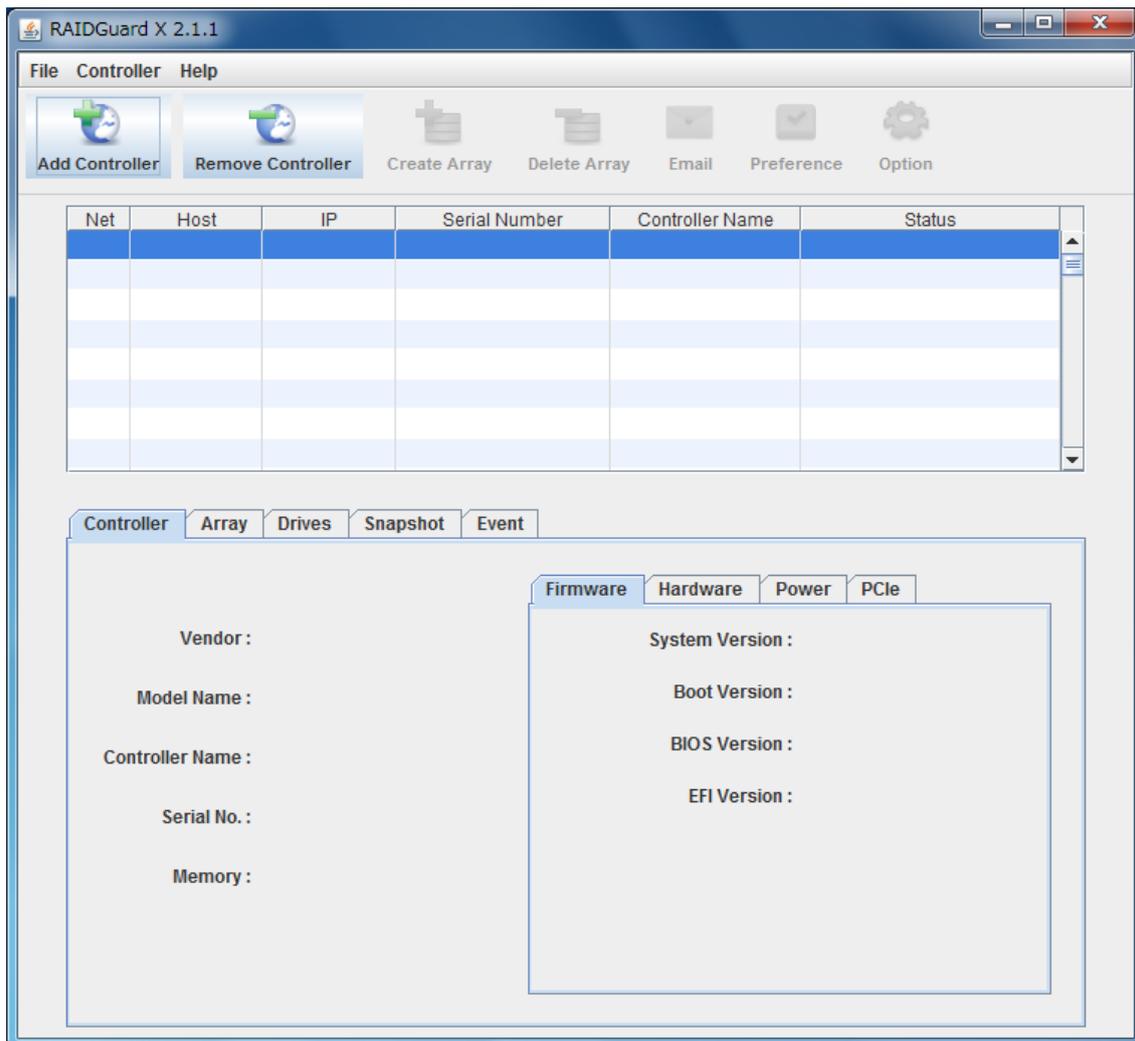


上記のように、できれば成功です。

2-2.RAID client の起動



ダブルクリックをしてください。

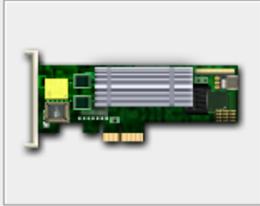


上記のような画面となるので、 **add Controller** を選択してください。

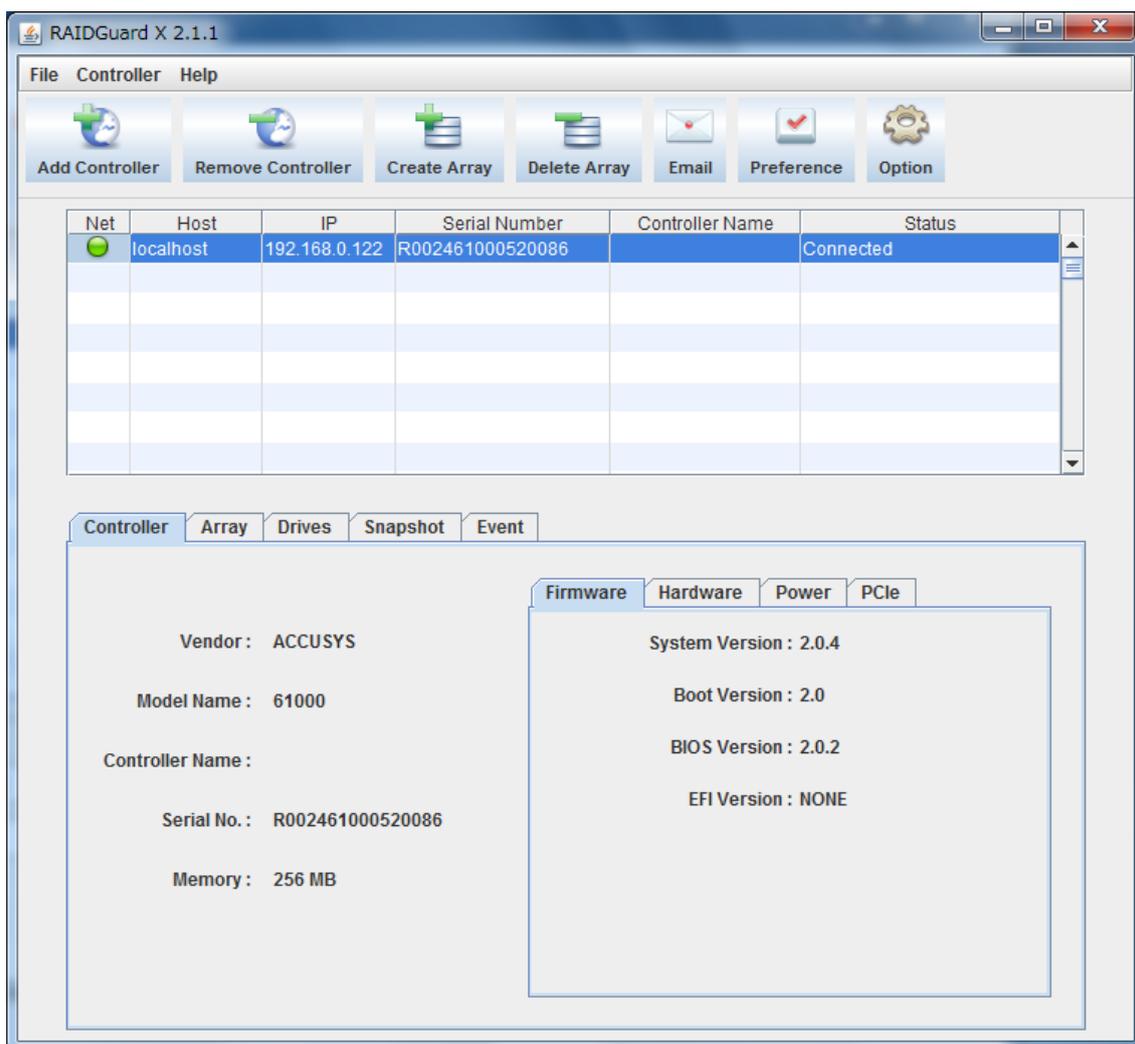
Add Controller

Host	IP	Serial No.	Controller Name	Model	Bay No.
localhost	Local	R002461000520086		61000	4

Password
 Controller Name



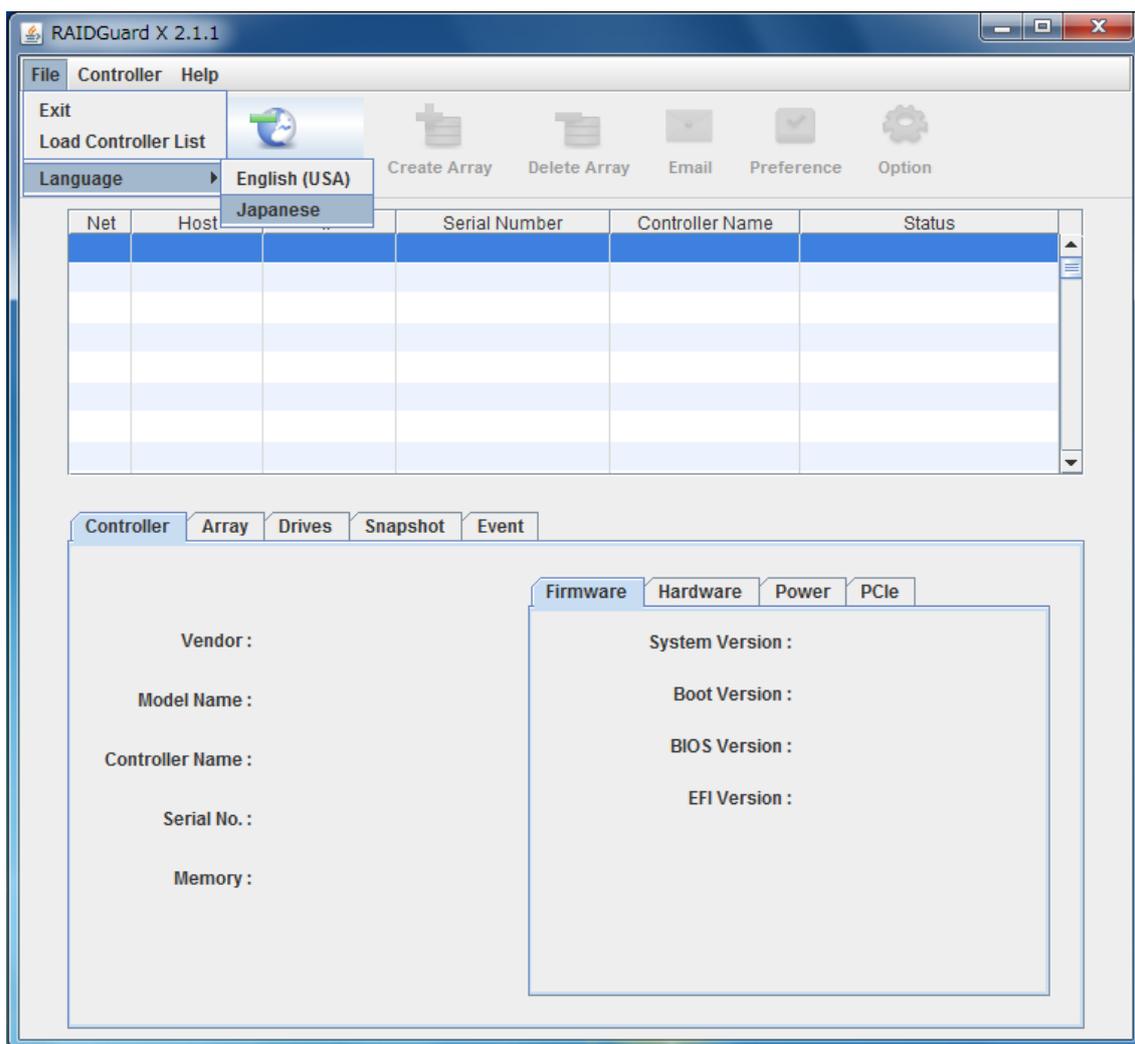
表記されているコントローラを選択肢、 password を入力し add をクリックしてください。
 このとき Controller Name は記載しなくても OK です。
 Password は “00000000” です。



登録されました。

File の Language で言語を日本語に切り替え可能です。

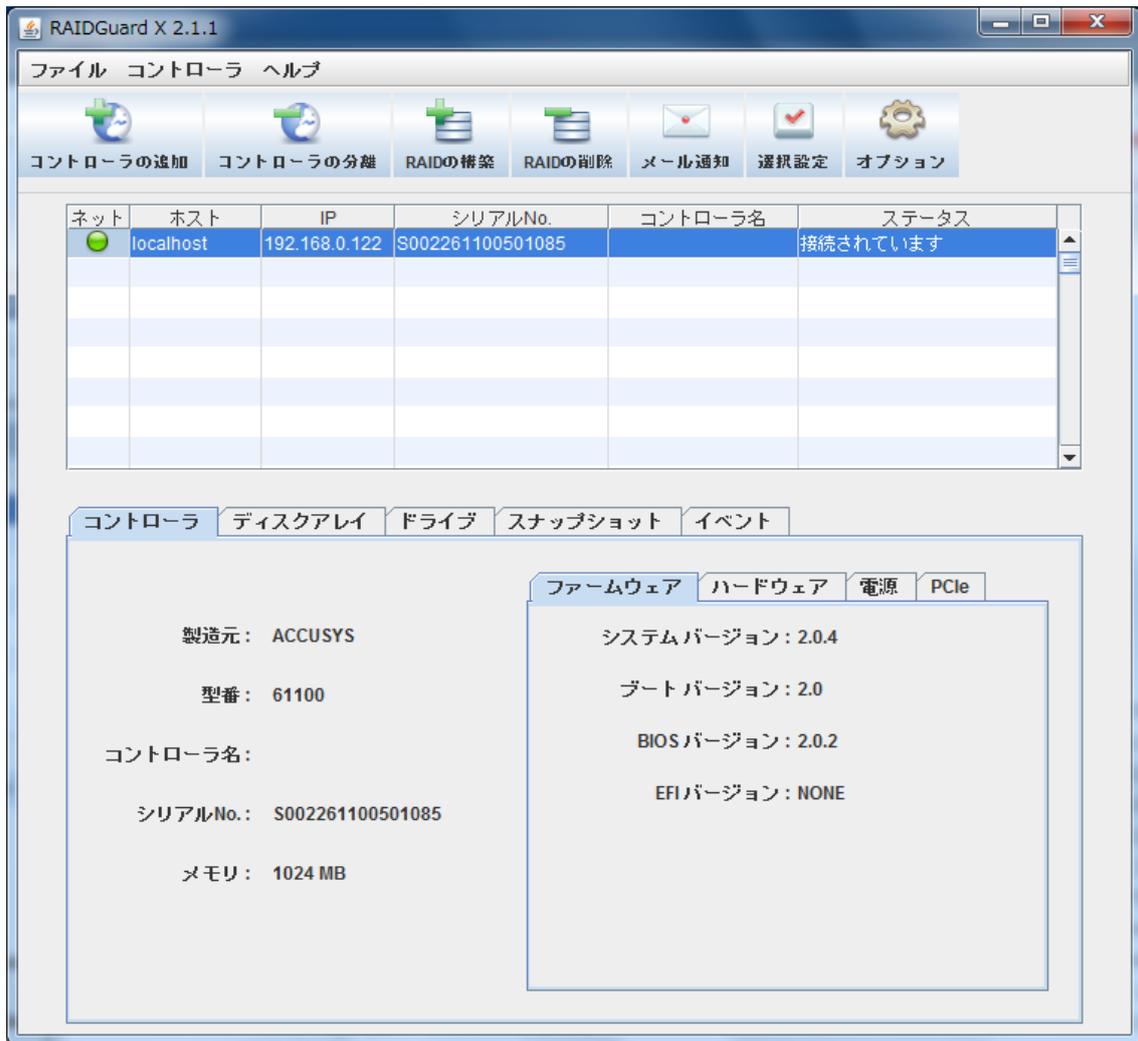
UAC が動作している場合には、日本語化は選択できません。



File > Language > Japanese



上記のような画面が出ますので、了解を選択。 RaidguardX client をいったん終了し再起動してください。



再起動後、日本語となっておれば成功です。

一部の機能が正常に動作できない場合があります。

弊社では、ユーティリティ機能に関してはサポートいたしませんのでお問い合わせいただいてもお答えいたしかねます。

スナップショット機能を使用した場合パフォーマンスが著しく落ちます。

またスナップショットの作成に時間がかかりますので、ご了承の上で作業ください。

スナップショットを取る HDD は、ACS-61XXX にマウントされた Volume で、LUN にマッピングしていない Volume に行うことができます。

LUN にマッピング済みの HDD には、スナップショットは作成できません。